

静岡福祉文化を考える会 2021年度事業経過記録

月日	活 動 内 容
04/01	➤ 2021年度本会活動計画開始
04/24	➤ 本会第205回委員会開催
04/25	➤ 「共創社会実現研究会」委員委嘱依頼文書送付（3名） ➤ 日本福祉文化学会（広報担当：稲田氏）へ、状況報告（ブログUP依頼） （考える会団体会員加入、県共募助成事業決定、子ども対象調査実施）
04/26	➤ 事務局連絡調整（会費納入状況、第205回委員会資料、会計残金） ➤ 平成27年度「若者発 ご近所福祉かるた」配布・設置団体・グループ・施設への調査実施にあたり、内容検討作業
04/27	➤ 第1回共創社会実現研究会に関する準備作業（旅費、レジュメ、ラベルシール、関連資料）
04/28	➤ 第1回共創社会実現研究会に関する連絡調整作業
04/29	➤ 平成27年度「若者発 ご近所福祉かるた」配布・設置団体への調査票送付（16ヵ所） ➤ 事務局連絡調整（会計関連）
04/30	➤ 第1回公開型研修会開催案内（41ヵ所）送付
05/01	➤ マスコミ15社に第1回公開型研修会開催事前告知及び当日取材依頼（FAX） ➤ あしたの日本を創る協会助成事業事前協議書提出（調査実施）
05/02	➤ 事務局連絡調整（会計関連）
05/15	➤ 第1回共創社会実現研究会、第206回委員会、第1回公開型研修会関連準備作業 （レジュメ及び関連資料、謝金・旅費、看板・表示） ➤ 平成27年度「若者発 ご近所福祉かるた」配布・設置団体への調査票回答回収状況確認
05/17	➤ 県共同募金に助成事業の状況報告実施
05/22	➤ 第1回共創社会実現研究会、第206回委員会、第1回公開型研修会開催
05/25	➤ あしたの日本を創る協会より、「政策提言」として、助成申請の助言あり。改めて助成申請書提出 ➤ さわやか福祉財団へ、助成事業に関する問い合わせ実施
05/27	➤ 日本福祉文化学会へ本会団体会員として手続き実施 ➤ さわやか福祉財団へ、助成事業申請書提出
05/28	➤ 会員へ第1回公開型研修会等関連資料送付 ➤ 共創社会実現研究会委員へ関連資料送付
06/01	➤ Our Life 134号発行、会員及び関係機関・団体等にメール送信・配布作業
06/03	➤ さわやか福祉財団より、助成決定（調査研究活動費15万円）の連絡あり ➤ 第1回IT部会（調査研究部会）開催（今年度の調査研究事業に対する説明）
06/07	➤ あしたの日本を創る協会より、助成決定（調査研究活動費5万円）の連絡あり
06/08	➤ 平成27年度かるた配布団体へのアンケート回収（8団体、50%） ➤ 調査実施要項及び調査個票素案作成作業 ➤ かるた増刷に関する印刷業者（焼津市ジヤ印刷工芸社）との協議・発注 （一部修正箇所の説明、かるた増刷作業工程7月1日納品努力）
06/11	➤ かるた校正原稿確認
06/12	➤ 焼津福祉文化共創研究会2021年6月（第27回）定例会開催 （静岡福祉文化を考える会との連携のもとに調査実施を確認）
06/14	➤ 学校関係者に「子ども対象調査個票」について助言求める
06/16	➤ 焼津市港地区民生委員児童委員協議会6月定例会において「子ども対象調査」実施に関して説明し、協力を求める ➤ 港第23自治会町内会長会議において「子ども対象調査」実施に関して協力を求める
06/19	➤ 港第14自治会町内会長会議において「子ども対象調査」実施に関して協力を求める
06/26	➤ 第2回IT部会（調査研究部会）開催 （県内外の子ども対象調査に関する情報収集状況報告、調査実施要項及び調査票検討）
06/28	➤ 調査実施要項及び調査個票修正作業

月日	活 動 内 容
06/29	➤ 共創社会実現研究会各委員に調査個票送付
06/30	➤ 調査実施要項及び調査個票最終検討作業実施
07/01	➤ 若者発 ごと近所福祉かるた増刷分（100セット）納品→配布検討作業開始
07/02	➤ 今年子ども対象調査活動に関する、今後の展開協議
07/03	➤ 第2回共創社会実現研究会 （経過報告、事業実施に関する説明と意見交換、かるた活用に関するアンケート実施経過報告）
	➤ 第207回委員会開催
07/07	➤ 第2回共創社会実現研究会議事録を考える会ブログにUP ➤ 県共同募金会に経過報告 ➤ あしたの日本を創る協会からの助成で、コト対策資材を購入（¥9,238）し、協会に報告 ➤ 学校関係者より調査票の助言をいただく
07/08	➤ 鈴与マッチングギフト助成事業説明会出席（拡大かるた2セット申請検討）
07/09	➤ 第3回調査部会開催（調査票データ入力協力者呼びかけ）
07/12	➤ 子ども対象調査票予備テスト実施
07/16	➤ 下田市大沢地区でのご近所福祉かるたを地区内の啓発活動に活用してよいか連絡有 →有効に活用していただくよう回答 ➤ 調査票印刷作業実施 ➤ 調査票発送に伴う依頼文書作成
07/22	➤ 本日で、調査票発送作業完了（93カ所、610枚）
07/23	➤ 日本福祉文化学会へ本会活動計画、Our Life 134号、調査関連資料情報提供
07/26	➤ シヤ印刷工芸社へ拡大かるた見積書の作成依頼
07/27	➤ 静岡市V連へ、9月11日公開型研修会情報提供 ➤ 会員宛調査票3枚、Our Life 135号、第2回公開型研修会チラシ等配布 ➤ 日本福祉文化学会より資料届く （会員現在215名、事務局移転、第32回学会大会オンライン開催、第33回大会京都で開催）
07/28	➤ 本日より調査票データ入力作業開始 ➤ シヤ印刷工芸社より、拡大かるた見積書届く
07/31	➤ 第4回調査部会開催（調査票配布状況報告）
08/01	➤ 鈴与マッチングギフト助成事業申請書提出
08/13	➤ 小さな親切運動本部へ、若者発 ごと近所福祉かるたとともに活用状況寄稿
08/16	➤ 「若者発 ごと近所福祉かるた利用の手引書」作成準備に入
08/18	➤ 第5回調査部会開催（経過報告、データ入力に関する協議）
08/28	➤ 焼津福祉文化共創研究会8月（第29回）定例会開催 （本会調査票配布及び回収状況の確認、300名の回収目標達成努力等説明）
08/31	➤ 静岡新聞記者に調査活動の取り組み状況報告と今後の協力を要請する
09/01	➤ 調査票データ入力担当調整
09/03	➤ 研究会・考える会ブログは「調査関連情報」UPで、アクセス件数増大傾向 ➤ 沼津市役所との協議の折、かるた及び調査について経過を説明する
09/04	➤ 学校関係者に調査活動の進捗状況を報告する
09/06	➤ 調査協力者には、その都度、礼状と回答送料負担分を切手で順次送付作業開始 ➤ 調査報告書作成企画書作成
09/07	➤ 静岡新聞記者が調査活動の取り組み状況を確認に来所
09/11	➤ 第6回調査部会開催（報告書作成企画書説明、調査票回収状況確認、クロス集計作業検討） ➤ 第208回委員会開催 ➤ 第3回共創社会実現研究会開催（調査実施状況報告、かるた利用の手引きに関する協議） ➤ 第2回公開型研修会開催
09/13	➤ 第20回静岡県福祉文化研究セミナー開催要項検討
09/14	➤ 共創社会実現研究会委員へ11月27日第4回共創社会実現研究会開催通知送付

月日	活 動 内 容
09/15	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 若者発 ご近所福祉かるた利用の手引き編集作業 ➤ Our Life 136 号編集作業及び発行・発送（メール送信）作業
09/16	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 会員へ第 20 回静岡県福祉文化研究セミナー開催案内及び Our Life 136 号発送作業
09/17	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 県共同募金会へ経過報告（手引書に関する問い合わせ） ➤ 調査データ入力 336 枚確認
09/24	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 調査票現在 345 枚確認
09/25	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 第 7 回調査部会（データ入力状況確認）
09/29	<ul style="list-style-type: none"> ➤ かるた及び利用の手引き配布計画作成
10/01	<ul style="list-style-type: none"> ➤ シンヤ印刷工芸社とかるた利用手引書印刷に関する協議
10/05	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 焼津福祉文化共創研究会活動が、まちむら 155 号(あしたの日本を創る協会発行)に掲載
10/07	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 若者発ご近所福祉かるた利用手引書修正作業続く
10/12	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 小さな親切運動本部より、若者発ご近所福祉かるたの掲載原稿届く ➤ 鈴与マッチングギフト助成事業（拡大かるた 2 セット作成 71,500 円）決定連絡有 ➤ シンヤ印刷工芸社に拡大かるた 2 セット発注
10/16	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 関係方面に第 20 回静岡県福祉文化研究セミナー開催内容案内（80 件）
10/19	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 浜松学院大学大野木氏（西部地域）より、116 枚の調査票回答届く
10/20	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 各方面へかるた配布作業（約 40 箇所）に関する業者との協議
10/23	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 若者発ご近所福祉かるた利用手引書修正作業続く ➤ 第 9 回調査部会開催（考える会調査票データ入力作業完了・総数 461 枚）
10/26	<ul style="list-style-type: none"> ➤ キリン財団の来年度助成事業に関する情報収集 ➤ シンヤ印刷工芸社と協議及びかるた利用の手引書入稿
10/27	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 拡大かるた制作状況打診
10/30	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 静岡県コミュニティづくり推進協議会主催コミュニティレッジにて、本会の実践展開紹介
11/10	<ul style="list-style-type: none"> ➤ かるた利用の手引書（200 部）納品
11/11	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 静岡県共同募金会へ事業経過報告実施
11/20	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 最終調査票集計状況（461 枚）確認
11/23	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 小さな親切運動本部より、若者発ご近所福祉かるたの掲載季刊誌届く
11/27	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 拡大かるた 2 セット（鈴与マッチングギフト助成事業）納品 ➤ 静岡市社会福祉協議会に鈴与マッチングギフト助成事業報告書提出 ➤ 第 4 回共創社会実現研究会開催 (調査研究事業経過報告、かるた利用の手引の活用協議、共創社会実現に向けた意見交換) ➤ 第 209 回委員会，第 20 回静岡県福祉文化研究セミナー開催 ➤ 調査報告書編集作業に関する協議
11/28	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 今年度の調査研究事業の今後の展開について協議
11/30	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 第 10 回調査部会開催（調査集計表・クロス集計表確認）
12/02	<ul style="list-style-type: none"> ➤ かるた利用の手引き及び増刷かるたを配布計画に基づき，発送作業実施 ➤ Our Life 137 号発行
12/03	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 調査報告書継続執筆作業
12/18	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 第 11 回調査部会開催（経過報告，執筆状況確認）
01/08	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 第 12 回調査部会開催（データ最終確認）
02/05	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 第 13 回調査部会開催（調査報告研修会の具体的展開確認）
02/26	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 「福祉ってなに？ 461 名の子どもたちに聞きました」調査報告書に基づき公表 ➤ 第 210 回委員会，第 3 回公開型研修会開催
以 降 計 画 予 定	
03/12	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 第 14 回調査部会開催（調査研究事業総括）
03/25	<ul style="list-style-type: none"> ➤ Our Life 138 号発行
03/27	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 2021 年度事業総括
03/28	<ul style="list-style-type: none"> ➤ (公財) さわやか福祉財団，(公財) あしたの日本を創る協会助成事業報告書提出

【静岡福祉文化を考える会】 2021 年度調査研究事業
「福祉ってなに? 300 名の子どもたちに聞きます」実施要項

1. 調査の目的

本会は、結成以来 25 年間、主に大人社会を対象に調査に取り組んできたが、地域住民相互のつながりやささえあい弱くなり、地域コミュニティへの関わりについて、その意識と実態がさらに希薄化していることが浮き彫りになった。

こうした、地域環境で生活している次世代を担う子どもたちの「思いやりの心」が、確実に醸成されているか、大いに気になるところである。加えて、厳しいコロナ禍の続く今日にあって、子どもたちの福祉に関する意識と実態の現状を問い質す時期を迎えている。

このたびの調査では、身近な生活圏域において、地域の大人社会と向き合う子どもたちを対象にご近所や同居する高齢者（認知症高齢者含）、障がい児者等への思いやり等について、下記 6. に挙げた調査項目の意識と実態を把握し、子どもたちを取り巻く地域環境の課題を改善・解決し「共生社会」を目指して、地域社会に提言することを目的に取り組む。

2. 実施主体 静岡福祉文化を考える会

3. 協力 焼津福祉文化共創研究会 共創社会実現研究会

4. 調査対象 県内の小学 4 年生、5 年生、6 年生（約 300 名）の調査票回収を目標に実施。

5. 調査依頼&配布方法

- | | | | |
|-----------------|---|-------|-------------|
| (1) 会員（現在 21 名） | … | 63 枚 | （各 3 枚×21） |
| (2) 地域実践者等に依頼 | … | 107 枚 | |
| (3) 福祉関連団体に依頼 | … | 30 枚 | Total 300 枚 |

6. 調査項目

- | | |
|-----------------|----------------------|
| (1) 基本属性 | (4) 地域社会・地域活動のこと |
| (2) 生活状況（子ども自身） | (5) こんな福祉との出会いがありました |
| (3) 家庭・家族のこと | (6) 地域への期待（自由な意見提言） |

7. 調査展開

- | | | |
|---------------------------------|---|---------------------------------------|
| (1) 調査項目・調査票検討 | … | 2021 年 04 月～06 月 |
| * 本会委員会及び IT（調査）部会等を中心に検討 | | |
| (2) 調査票完成 | … | 2021 年 07 月 17 日 |
| (3) 調査依頼（実施期間） | … | 2021 年 07 月 25 日～08 月 31 日（夏休み期間中に実施） |
| (4) 回収&入力 | … | 2021 年 07 月 30 日～10 月 30 日 |
| (5) 分析&考察 | … | 2021 年 10 月 30 日～12 月 15 日 |
| (6) 公表&報告 | … | 2022 年 01 月予定 |
| ① 公開型研修会、関係機関・団体等の各種研修会で実施。 | | |
| ② 本会機関紙（Our Life）で経過報告及び考察概要紹介。 | | |

8. 問い合わせ・取りまとめ先

〒425-0041 焼津市石津 751-1 静岡福祉文化を考える会 代表 平田 厚

Tel. & Fax.: 054-624-1924 携帯：090-4861-4547 Email: monogusa-tomy@theia.ocn.ne.jp

◆ この調査研究事業は、公益財団法人さわやか福祉財団・地域助け合い基金及び公益財団法人あしたの日本を創る協会・政策提言課題の助成を受けて実施します。

「福祉ってなに？ 300名の子どもたちに聞きます」アンケートにご協力下さい。

このアンケートは、静岡県内の小学校4年生から6年生のみなさんに協力をお願いしています。みなさんの毎日の生活、家庭における生活、そして、地域（自治会・町内会・子ども会等）における生活について、「24の質問」に答えて下さい。

みなさんからの大切な意見は、みなさんが安心して楽しく地域で暮らし合えるように、これからの地域づくりに参考にしていきます。 よろしくお願ひします。

★このアンケートは、「公益財団法人さわやか福祉財団・地域助け合い基金」及び「公益財団法人あしたの日本を創る協会・政策提言課題」の助成を受けて実施します。

2021年7月25日 静岡福祉文化を考える会

質問1 あなたのことについて、答えて下さい。

- 問01. 性別 ①男性 ②女性
- 問02. 学年 ①4年生 ②5年生 ③6年生
- 問03. あなたの住まいは、どの地域ですか。 ①東部地域 ②中部地域 ③西部地域
- 問04. あなたの家族について答えて下さい。
①おじいちゃんやおばあちゃんといっしょに暮らしている ②親と子どもだけで暮らしている
③その他（ ）
- 問05. あなたは、あなたをふくめて、兄弟姉妹は何人ですか。
①1人 ②2人 ③3人 ④4人以上

質問2 あなたは、友だちと遊びますか。

- ①よく遊ぶ ②ときどき遊ぶ ③あまり遊ばない ④全く遊ばない

質問3 あなたは、お手伝いをしますか。

- ①よくする（どんなお手伝いですか。→ ）
②ときどきする（どんなお手伝いですか。→ ）
③あまりしない ④しない

質問4 あなたは、自分のことでこまったときは主に、だれに話したり相談したりしますか。

主なものを3つまで答えて下さい。

- ①友だち ②父親 ③母親 ④学校の先生 ⑤おじいちゃん・おばあちゃん ⑥親せきのひと
⑦兄弟姉妹 ⑧他のひと（ ） ⑨誰にも相談しない ⑩こまっていない

質問5 あなたは、友だちが困っていたり、悩んでいたらどうしますか。

- ①話を聞く ②別の友だちや大人などに相談する ③何もしない ④その他（ ） ⑤わからない

質問6 あなたは家族と話をしますか。

- ①よく話をする ②たまに話をする ③ほとんど話をしない

質問7 質問6.で「①よく話をする」「②たまに話をする」に○をつけた人に聞きます。

どんな時に話をしますか。主なものを3つまで答えて下さい。

- ①土日や祝日等学校が休みの時 ②食事をしている時 ③一緒にお風呂に入っている時
④みんなでテレビを見ている時 ⑤家族で外出・旅行をしている時 ⑥その他（ ）

質問8 質問6.で「③話をしない」に○をつけた人に聞きます。主なものを3つまで答えて下さい。

- ①学校の勉強が忙しく家族と話す時間が無い ②話したくない ③何を話していいのかわからない
④習いごとが忙しく話す時間が無い ⑤その他（ ）

質問9 あなたは、家族の人にほめられますか。

- ①よくほめられる（どんなときですか。→ ）
②時々ほめられる（どんなときですか。→ ）
③あまりほめられたことが無い

- 質問 10 あなたは、毎日家族と楽しく過ごしていますか。
- ①楽しく過ごしている ②まあまあ楽しく過ごしている ③どちらかといえば楽しく過ごしていない
④楽しくない ⑤どちらともいえない
- 質問 11 あなたは、地域（自治会、町内会、子ども会等）でどのようなことに心掛けていますか。主なものを3つまで答えて下さい。
- ①電車やバスの中で席を譲る ②点字ブロックの上には自転車を置かない ③体の不自由な人に道路を譲る
④困っている人に声をかける ⑤自分から進んであいさつをする ⑥わからない ⑦特に何もしない
⑧その他（ ）
- 質問 12 あなたは、すすんで他人のためになにかをしてあげたいと思いますか。
- ①そう思う ②そう思わない ③どちらともいえない ④わからない
- 質問 13 あなたは、近所の人とよく話をしますか。
- ①よく話す ②あいさつをするくらい ③話をしない ④誰が住んでいるのかわからない
- 質問 14 あなたは、地域（自治会、町内会、子ども会等）が行う行事に参加していますか。
- ①よく参加している ②時々参加している ③あまり参加していない ④まったく参加していない
- 質問 15 あなたが住んでいる地域は、とても良い地域だと思いますか。
- ①とても良い ②良い ③あまり良くない ④よくない ⑤わからない
- 質問 16 質問 15で「①とても良い」「②良い」と答えた人に聞きます。どんな点が良いですか。主なものを3つまで答えて下さい。
- ①自然が多い ②近所の人優しい ③犯罪が少ない ④交通事故が少ない ⑤静かな場所
⑥地域の行事が多い ⑦交通の便が良い ⑧遊ぶ場所がある ⑨その他（ ）
- 質問 17 質問 15で「あまり良くない」「良くない」と答えた方は、どんな点が良くないですか。主なものを3つまで答えて下さい。
- ①自然が少ない ②近所の人から怒られる ③近所の人と交流がない ④犯罪が多い ⑤交通事故が多い
⑥騒音がうるさい ⑦交通の便が悪い ⑧地域の行事が少ない ⑨遊ぶ場所がない ⑩その他（ ）
- 質問 18 あなたは、地域（自治会・町内会・子ども会等）の行事参加の呼び掛けがあれば参加しますか。
- ①ぜひ、参加したい ②出来る範囲で参加したい ③参加したくない ④わからない
- 質問 19 あなたは、地域の人にほめられたことがありますか。
- ①ある（どのようなことですか➡ ）
②ない
- 質問 20 あなたは、「赤い羽根共同募金」のことを知っていますか。
- ①知っている ②知らない
- 質問 21 あなたは、身近な地域の情報はどこから得ていますか。主なものを3つまで答えて下さい。
- ①家族 ②友だち ③ラジオ・テレビ ④ネット ⑤新聞 ⑥市町広報誌 ⑦回覧板 ⑧学校
⑨公民館だより ⑩スーパー・商店等の掲示板 ⑪自治会・町内会発行広報誌 ⑫口コミ ⑬チラシ
⑭その他（ ） ⑮特にない
- 質問 22 あなたは、毎日の生活で、楽しい場所はどこですか。主なものを3つまで答えて下さい。
- ①家 ②学校 ③習いごと ④近所 ⑤その他（ ） ⑥ない
- 質問 23 あなたは、高齢者や障がいのある人とふれあい交流をしたことがありますか。
- ①ある（どんな交流ですか➡ ）
②ない
- 質問 24 あなたにとって、「安心して、みんなで楽しく暮らせる地域」とは、どんな地域ですか。
あなたの意見を紹介して下さい。

ご協力ありがとうございました

静岡福祉文化を考える会 26年の歩み

★印日本福祉文化学会主催(本会共催) ※印静岡福祉大との共催 ○印本会主催 △印社会福祉法人ハルモニアとの共催 ■印静岡県委託事業
 ☆印ふじのくに未来財団助成事業 ▲印公益財団法人あしたの日本を創る協会助成事業 ◆印 静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業
 ◇印公益財団法人さわやか福祉財団助成事業 ◎印焼津福祉文化共創研究会協働事業 ✕印静岡県共同募金会(赤い羽根共同募金)助成事業

年度	活動テーマ	実績	調査研究	機関誌発行
1995年 平成7年		★第10回福祉文化・静岡公開現場セミナー 「静岡発みんなで語ろう福祉文化を21世紀の礎に」 (浜松市 浜松こども園・プレスタワー) 全国から350名、スタッフ80名		
1996年 平成8年 ①	結婚とは	○設立総会(平成8年9月) 第1回公開型研修会「高校生の環境マップづくり」 ○第2回公開型研修会「青年は広野をめざす」 ○第3回公開型研修会「おいしい結婚まずい結婚」		No.1, 2
1997年 平成9年 ②	共働き	○総会・第1回講演会・研修会(座談会) 「家庭と地域と施設を語る」 ○第2回研修会 現場研修「老人施設と自立した長寿者」 ○第3回研修会 宿泊研修セミナー 「世代・領域を超え、福祉文化を語る」 ○第4回公開研修会 講演会「高齢者介護の問題点」 ○第5回研修会 現場研修「特養での実習・長寿者と語る」 ○第6回研修会 公開セミナー「共働きについて」	第1回共働きに関する意識調査	No.3, 4, 5, 6, 7, 8, 9
1998年 平成10年 ③	地域とは	○総会・第1回ミーティング(研修会)「お互いに肌の付き合いを」 ○第2回研修会 現場研修「地域社会での活動」 ○第3回研修会 宿泊研修セミナー「世の中どうなってるの?」 ○第4回研修会 現場研修「障害児によせる地域の人たち」 ○第5回研修会「映画より 障害者の声」 ○第6回研修会 参加型公開シンポジウム「歩けなくなる日がやってくる」	第2回地域に関する意識調査(その1)	No.10, 11, 12, 13, 14
1999年 平成11年 ④	家族とは	○総会・第1回研修会「私たちに地域とは何か」 ○第2回研修会 合宿体験セミナー「福祉の裏と表」 ○第3回研修会 現場研修「在日外国人と日本語、母国の文化」 ★第18回日本福祉文化学会現場セミナー 「宮城まり子さんと福祉文化を学ぶ」 ○第4回研修会 公開シンポジウム「私たちに家族とは」	第3回家族に関する実態調査	No.15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22
2000年 平成12年 ⑤	父親とは	○総会・第1回公開トークシンポジウム「今日まで そして明日から」 ○第2回研修会 合宿体験セミナー「親と子 それぞれの言い分」 ○第3回研修会 公開シンポジウム「福祉文化へチャレンジ 障害者の余暇文化」 ○第4回研修会 公開セミナー「私たちに父親とはなにか?」	第4回父親像に関する実態調査	No.23, 24, 25, 26
2001年 平成13年 ⑥	ボランティア活動とは	○総会・第1回公開トーク「ボランティアはただ働きの代名詞か」 ○第2回研修会 公開型合宿セミナー 「何か変だぞ?ボランティア活動」 ○第3回研修会 国際年2001年ボランティアEXPO 「ボランティアはただ働きの代名詞か」 ○第4回研修会 公開シンポジウム 「ボランティア実践者意識調査の報告」	第5回ボランティア活動実践者の実態調査	No.27, 28, 29, 30, 31
2002年 平成14年 ⑦	働く人の暮らし	○総会・第1回公開トーク「福祉文化の原点を探る」 ○第2回研修会 合宿セミナー「福祉文化の創造とは」 ○★第13回日本福祉文化学会大会 in しずおか ○第1回静岡県福祉文化研究セミナー 「富士山麓のちと暮らしによりそう福祉文化の創造と推進」 ○第3回研修会 公開トーク「生きること・働くこと楽しいですか」	第6回働くこと・生きること、生活者の意識調査	No.32, 33, 34, 35
2003年 平成15年 ⑧	青年の生きがい	○総会・第1回研修会「精神障害者の生活支援と余暇文化」 ○第2回研修会 合宿体験セミナー「大人の言い分 青少年の言い分」 ○第3回研修会 公開型研修会「青年の生きがいを探ろう」 ○第2回静岡県福祉文化研究セミナー 「大人も子どもも障害者も高齢者も豊かに生きるための福祉文化」	第7回青少年の生きがい・就労に関する意識調査	
2004年 平成16年 ⑨	地域とはⅡ	○総会・第1回公開トーク「福祉文化を創造する地域づくり」 ○第2回研修会 合宿セミナー「町づくり・こんな町に住みたい」 ○第3回静岡県福祉文化研究セミナー「地域福祉と福祉文化活動」 ○第3回研修会 公開研修会「検証/福祉文化と地域づくり」	第8回地域に関する意識調査(その2)	No.36, 37, 38, 39
2005年 平成17年 ⑩	子どもたちを取りまく諸問題	○総会・第1回研修会「福祉文化の原点を探る～子どもと地域をつなぐ」 ○第4回静岡県福祉文化研究セミナー 「つながる地域に、福祉文化を発信できる新たなまちづくりを語ろう」 ※○「はっぴい祭2005」第2回研修会 ○第3回研修会 公開型トーク 「大いに語ろう、地域ぐるみで子ども達を育むには」	第9回子どもと保護者の意識調査	No.40

静岡福祉文化を考える会 26年の歩み

★印日本福祉文化学会主催(本会共催) ※印静岡福祉大との共催 ○印本会主催 △印社会福祉法人ハルモニアとの共催 ■印静岡県委託事業
 ☆印ふじのくに未来財団助成事業 ▲印公益財団法人あしたの日本を創る協会助成事業 ◆印 静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業
 ◇印公益財団法人さわやか福祉財団助成事業 ◎印焼津福祉文化共創研究会協働事業 ✕印静岡県共同募金会(赤い羽根共同募金)助成事業

年度	活動テーマ	実績	調査研究	機関誌発行
2006年 平成18年 ⑪	子どもたちと 地域環境	○第1回総会・自由討議 今後の「静岡福祉文化を考える会」の再生に向けて ※「わんぱくあそびフェスティバル 2006」 第2回研修会 公開型研修会 ※「はっぴい祭 2006」 第3回研修会 公開型研修会 ○第5回静岡県福祉文化研究セミナー 「静岡から発信する『福祉文化の創造』とはなにか」 ○第4回研修会 座談会「子どもたち、その実情とこれからを・・・」 ○第5回研修会 公開研修会 「地域ぐるみで子どもを育む講座」	第10回子どもと社会環境に 関する調査	No.41, 42, 43, 44, 45
2007年 平成19年 ⑫	団塊の世代	○第1回研修会 公開型研修会 全国一斉「あそびの日」キャンペーン事業 ※「わんぱくあそびフェスティバル 2007」 ○総会・第2回公開トーク「世間は団塊の世代を議論しているが・・・」 第3回研修会 公開型研修会 ※「はっぴい祭 2007」 ○第6回静岡県福祉文化研究セミナー 「地域活動と団塊の世代の役割に関する意識調査」から何が見えたか	第11回「地域活動」と「団塊 の世代」の役割に関する調 査	No.46, 47, 48, 49
2008年 平成20年 ⑬	長寿者(高齢者) の自立	○静岡福祉文化を考える会 10周年記念誌発行 ○総会・第1回公開トーク 「地域で豊かに暮らし合うための条件ー長寿者と福祉文化ー」 ■第2回公開型研修会(県委託事業) 「ほっとする居場所、ここが一番居心地がいい」 ■第3回公開型研修会(県委託事業、沼津市社協主催) 「ご近所福祉 in ぬまづ」 ■第7回静岡県福祉文化研究セミナー (日本福祉文化学会ブロック研修)(県委託事業) 「長寿者とともに暮らす 共生社会づくりの担い手は一体誰か？」 ■県委託事業「ひとりでも安心して暮らせる地域づくり4地区モデル事業」 (沼津市、富士川町、掛川市、袋井市) 第25回中日ボランティア賞受賞 平成20年度「みずほ福祉助成財団」より助成 第6回静岡市社会福祉大会会長表彰受賞 ■平成20年度県委託事業関係者連絡会 2回(7月、3月)開催	第12回県共募助成事業 長寿者の生きがい、その意 識と実態に関する調査 第13回県委託事業 日常生活と福祉情報に関す る調査	No.50, 51, 52, 53, 54, 55
2009年 平成21年 ⑭	長寿社会 (地域づくり)	○総会・第1回公開型研修会 公開トーク「共生社会と福祉文化」 ■第2回公開型研修会(県委託事業) 現場小セミナー「私にとっての心安らぐ居場所って何処？」 ー自宅以外の『もうひとつの家』誕生地域の支え合いを学ぶー ■第3回公開型研修会(県委託事業) 現場小セミナー 公開トーク 「協働による福祉社会再構築と福祉文化を大いに語ろう」 ■第8回静岡県福祉文化研究セミナー パノラマ式討論 「長寿者とともに小地域をつなぐ仕組みづくり実現にむけて」 ■県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」 4地区モデル事業 (小山町、伊豆の国市、焼津市小川第11自治会、菊川市) ■第4回公開型研修会 (県委託事業、焼津市小川第11自治会主催)「ご近所福祉インこがわ」 ■第5回公開型研修会(県委託事業、沼津市社協主催) 「ご近所福祉 in ぬまづ」 第5回福祉文化実践学会賞受賞 (平成22年2月28日に日本福祉文化学会第20回東京大会で受賞) ■平成21年度県委託事業関係者連絡会 3回(7月、11月、3月)開催	第14回県委託事業 長寿社会に関する県民意識 と実態調査	No.56, 57, 58, 59, 60
2010年 平成22年 ⑮	生活圏域の支え 合い	○総会・第1回研修(公開トーク) 「一人でも安心して暮らせる地域づくりの条件」 ■第2回公開型研修会(県委託事業) 井戸端会議方式/徹底討論 「これからのご近所の支え合いはどうなるの？」	第15回県委託事業 いまこそ、地域社会に福祉 文化を拓く「生活圏域におけ る支え合いとはなにか、本 音に迫る調査」	No.61, 62, 63, 64, 65, 66

静岡福祉文化を考える会 26年の歩み

★印日本福祉文化学会主催(本会共催) ※印静岡福祉大との共催 ○印本会主催 △印社会福祉法人ハルモニアとの共催 ■印静岡県委託事業
 ☆印ふじのくに未来財団助成事業 ▲印公益財団法人あしたの日本を創る協会助成事業 ◆印 静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業
 ◇印公益財団法人さわやか福祉財団助成事業 ◎印焼津福祉文化共創研究会協働事業 ※印静岡県共同募金会(赤い羽根共同募金)助成事業

年度	活動テーマ	実績	調査研究	機関誌発行
		<ul style="list-style-type: none"> ■第3回公開型研修会(県委託事業) 追跡討論「サロンは何をめざすのか」 ■第9回静岡県福祉文化研究セミナー オープン式KJ法に挑戦(第4回公開型研修会 県委託事業) 「これまでとこれから—生活圏の支え合いの仕組みづくりの提案—」 ■第5回公開型研修会(県委託事業、沼津市社協主催) 「ご近所福祉 in めまづ」 ■県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」 5地区モデル事業 (藤枝市、磐田市、富士宮市、西伊豆町、沼津市) ■平成22年度委託事業関係者連絡会 3回(7月、11月3月) △福祉コミュニティ講座 「ほっとする、私が主役の福祉のまちづくりにチャレンジ」4回シリーズ △みんな仲間集まれ「ウェルフェア塾」4回シリーズ △特別公開型研修会 共生社会実現への道程研修会 		
2011年 平成 23年 ⑩	生活圏域で一人 ひとりの居場所を 考える	<ul style="list-style-type: none"> ○総会・第1回公開型研修会全体ディスカッション 「これまでとこれから—静岡発 福祉文化の創造—」 △福祉コミュニティ講座(第2回公開型研修会) 住民主体の「福祉コミュニティづくり」を学ぶ —福祉施設とともに「福祉コミュニティ講座」を開講—4回シリーズ ■県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」 5地区モデル事業(富士宮市、西伊豆町、川根本町、袋井市) ■第10回静岡県福祉文化研究セミナー (第3回公開型研修会 県委託事業) 福祉文化の創造の原点に返って—世代を超えて語りあう— ■第4回公開型研修会 (県委託事業、沼津市社協主催)「ご近所福祉 in めまづ」 ■平成23年度委託事業関係者連絡会 3回(8月、12月、3月) ■第5回公開型研修会(県委託事業)「共生社会実現への道程研修会」 △「みんな仲間、集まれ『ウェルフェア塾』」(4回シリーズ) 	第16回県委託事業 「地域と私の居場所その意識と実態調査」	No.67, 68, 69, 70, 71, 72
2012年 平成 24年 ⑪	家族って何? 私の居場所がある のか	<ul style="list-style-type: none"> ○総会・第1回公開型研修会「今、あらためて“家族の実情”に迫る」 —ご近所とつながる家族機能を考える— ■第2回公開型研修会(県委託事業) 実践活動に学ぶ/グループワーク 「誰が担う?つながる地域 支え合う地域—世代を超えて、今こそ語ろう 考えようこれからの私の居場所」 △第3回公開型研修会 「実践活動から学ぶ—つながる地域・支え合う地域—」 ■△第4回公開型研修会 『福祉コミュニティ講座—地域と家族のつながりを考える—』(2回シリーズ) —地域に“私の居場所はありますか—楽しいを創造する地域とは” ■第11回静岡県福祉文化研究セミナー(第5回公開型) 「福祉文化と家族—これまでの家族・これからの家族」 ■第6回公開型研修会 (県委託事業、沼津市社協主催)「ご近所福祉 in めまづ」 △■第7回公開型研修会「共生社会実現への道程研修会」 「一人でも安心して暮らせる地域づくりとは—」 △福祉コミュニティ講座(第8回公開型研修会) 「ホットな出会い 楽しい遊び」 △「みんな仲間、集まれ『ウェルフェア塾』」(6回シリーズ) ■県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」 5地区モデル事業 (熱海市、牧ノ原市、掛川市、西伊豆町、富士宮市、沼津市) ■平成24年度委託事業関係者連絡会 3回(7月、12月、3月) 平成24年度静岡県社会福祉協議会会長賞受賞 	第17回県委託事業 今、あらためて、“家族の実情”に迫る 私にとって、家族ってなに?その意識と実態調査	No.73, 74, 75, 76, 77
2013年 平成 25年 ⑫	ここが一番ホッと する私たちのご近 所の居場所づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○総会・第1回公開型研修会「つながるご近所の再構築の決め手は?」 ■第2回公開型研修会(県委託事業) 住民主体でご近所を診断「長寿者が輝く これからの“ご近所”を創る」 ■第3回公開型研修会 「ご近所の支え合いの取組みを学ぶ—実践事例からの検証—」 	第18回県委託事業 ホッとするご近所づくり その意識と実態調査	No.79, 80, 81, 82, 83

静岡福祉文化を考える会 26年の歩み

★印日本福祉文化学会主催(本会共催) ※印静岡福祉大との共催 ○印本会主催 △印社会福祉法人ハルモニアとの共催 ■印静岡県委託事業
 ☆印ふじのくに未来財団助成事業 ▲印公益財団法人あしたの日本を創る協会助成事業 ◆印 静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業
 ◇印公益財団法人さわやか福祉財団助成事業 ◎印焼津福祉文化共創研究会協働事業 ※印静岡県共同募金会(赤い羽根共同募金)助成事業

年度	活動テーマ	実績	調査研究	機関誌発行
		<ul style="list-style-type: none"> ■第4回公開研修会 (第12回福祉文化研究セミナーとして開催) 『誰がご近所福祉を創るか、これが一番、ホッとする支え合い』 ■第5回公開型研修会 (県委託事業、沼津市社協主催)「ご近所福祉 in ぬまづ」 ■第6回公開研修会 「長寿者から学ぶ“ご近所福祉”」大石さき様宅訪問 ■県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」 7地区モデル事業 (熱海市、牧ノ原市、沼津市、長泉町、島田市、御前崎市、森町) ■平成25年度委託事業関係者連絡会 2回(7月、3月) ■ご近所福祉カルタ制作(次年度継続) 		
2014年 平成26年 ⑱	人々が豊かに暮らし合い、安心して暮らせる地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○総会・第1回公開型研修会 福祉文化ってなに?その①豊かに暮らしあえる地域を大いに語ろう」 ■第2回公開型研修会(県委託事業) 「福祉文化ってなに?その② 地域の豊かさとは何か」 ■第3回公開研修会(県委託事業) (第13回福祉文化研究セミナーとして開催) 「静岡発 福祉文化の創造一人々が豊かに暮らし合い、安心して暮らせる地域づくり」 ■第4回公開研修会(県委託事業) 「鈴木君なぜ地域参加するの? 山田君なぜ地域参加しないの?」 ○第5回公開研修会 「地域の豊かさとは—静岡発 福祉文化活動からの検証—」 ■若者の「訪問型研修会」から長寿者を取り巻く地域問題解決の提言 計10回、延べ152名が訪問 ■県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」 6年間の実践的活動地区の総合的検証 ■共創社会実現研究会(23名の委員構成)の設置と4回開催 ■ご近所福祉カルタ制作に向けた協議 ○あしたの日本を創る協会「生活会議」事業の取り組み(助成事業) 	第19回県委託事業 豊かに暮らせる地域づくりその意識と実態調査	No.84, 85, 86, 87, 88
2015年 平成27年 ⑳	静岡発 福祉文化の創造による豊かに暮らせる生活圏域の地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○総会・第1回公開型研修会 「今こそ、静岡発 福祉文化の創造をめざして 豊かな地域づくりを語ろう」 ○第2回公開型研修会 「地域住民が集まる居場所とは」 ○第3回公開研修会 「私の地域を知っていますか、まずは地域の豊かさづくりから」 ○第4回公開研修会 「地域ぐるみの学び合いで語れる環境を創る」 ○第5回公開研修会 「福祉課題解決に、私の地域の社会資源をどう活かすか」 ○第14回静岡県福祉文化研究セミナー 「静岡発 福祉文化の創造による豊かに暮らせる生活圏域の地域づくり」 ○第6回公開研修会 「福祉情報の共有化と地域の支え合い」 ○第7回公開研修会 「20年をこれからの原点に —当たり前のことが当たり前出来る地域とは—」 ○若者発ご近所福祉かるたの創作と地域学習の開拓 県共同募金助成事業(かるた100セット作成) ○「共創社会実現研究会」設置(12回開催) ○「若者発”居場所”あり方研究会」設置(9回開催) ○静岡福祉文化を考える会 20周年記念誌発行(200部) ○あしたの日本を創る協会「生活会議」事業の取り組み(助成事業) 	第20回 若者の地域参加 その意識と実態調査	No.94, 95, 96, 97, 98, 99, 100, 101, 102, 103
2016年 平成28年 ㉑	静岡発 福祉文化の創造とご近所福祉	<ul style="list-style-type: none"> ○総会・第1回公開型研修会 「静岡福祉文化を考える会これまでとこれから」 ○第2回公開型研修会「いかに地域性を発揮したご近所福祉を創るか」 ○第3回公開研修会 「静岡発福祉文化の創造とご近所福祉を総括する」 ○第15回静岡県福祉文化研究セミナー 「静岡発福祉文化の創造と豊かなご近所福祉づくり」 	第21回 ご近所福祉その意識と実態調査(調査報告書は、静岡市V連絡協議会助成により100部作成)	No.104, 105, 106, 107, 108, 109, 110

静岡福祉文化を考える会 26年の歩み

★印日本福祉文化学会主催(本会共催) ※印静岡福祉大との共催 ○印本会主催 △印社会福祉法人ハルモニアとの共催 ■印静岡県委託事業
 ☆印ふじのくに未来財団助成事業 ▲印公益財団法人あしたの日本を創る協会助成事業 ◆印 静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業
 ◇印公益財団法人さわやか福祉財団助成事業 ◎印焼津福祉文化共創研究会協働事業 ※印静岡県共同募金会(赤い羽根共同募金)助成事業

年度	活動テーマ	実績	調査研究	機関誌発行
		<ul style="list-style-type: none"> ○鈴与マッチングギフト助成事業による「若者発 ご近所福祉かるた」拡大版2セット作成と活用開拓 ○「若者発 ご近所福祉かるた」の有効活用によるご近所福祉の検証及び「拡大かるた」の有効活用 ○「焼津市新しい地域支援のあり方」を考えるフォーラム」運営協力 ○沼津市社会福祉協議会主催「沼津市ワークショップ」協力 ○「共創社会実現研究会」の設置(6回開催) ○常葉大学同好会「若者発“居場所”あり方研究会」への支援と協働活動の展開 ○あしたの日本を創る協会「生活会議」事業の取り組み(新しい地域課題・助成事業) ○焼津市教育委員会主催「おしゃべりカフェ」運営協力 ○焼津市港地域づくり推進会主催「港地域ささえあい講座」協力 		
2017年 平成29年 ⑳	ご近所福祉で集まる地域ぐるみの居場所を拓く	<ul style="list-style-type: none"> ○総会・第1回公開型研修会『ご近所福祉と居場所』 ☆第2回公開型研修会「ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりを拓く」 ☆第3回公開型研修会「地域ぐるみの居場所をめざす」 ☆第16回静岡県福祉文化研究セミナー「静岡発 福祉文化の創造とほっとする居場所」 ☆「共創社会研究会」の設置(4回開催) ○焼津市港地域づくり推進会主催「港地域ささえあい講座」協力 ○「いかずい北川原」居場所協力(焼津市) ▲あしたの日本を創る協会「新しい地域課題(全国的な課題)助成事業」 ◆平成29年度静岡県社会福祉協議会ふれあい基金地域福祉・ボランティア活動等推進助成事業 ☆ふじのくに未来財団「福祉コミュニティ再構築に向けた県民の意識と実態把握事業—ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりへの提言」助成事業 ○常葉大学同好会「若者発“居場所”あり方研究会」への支援と協働活動の展開 ○「若者発 ご近所福祉かるた」の有効活用によるご近所福祉の検証及び「拡大かるた」の有効活用 H.29年度静岡市表彰受賞	第22回 居場所ってなに？その意識と実態調査(静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成・あしたの日本を創る協会助成・ふじのくに未来財団助成)	No.111, 112, 113, 114, 115, 116
2018年 平成30年 ㉑	子どもを育む地域づくりとは	<ul style="list-style-type: none"> ○総会・第1回公開型研修会「福祉文化と子どもを育む地域づくりを考える」 ○第2回公開型研修会「支え合う地域ぐるみの“子供の居場所”を考える」 ○第3回公開型研修会「子どもたちが安心して暮らせる地域づくりとは」 ○第17回静岡県福祉文化研究セミナー「静岡発 福祉文化の創造と子ども支援を考える」 ○焼津市港地域づくり推進会主催「港地域ささえあい講座」協力(全4回) ○「焼津市いかずい北川原居場所」協力 ○「若者発“居場所”あり方研究会」(常葉大学同好会)への情報提供 ○「若者発ご近所福祉かるた」有効活用呼び掛け ○県内要請市町研修支援 ○第29回日本福祉文化学会大阪大会にて、「本会の23年間の福祉文化実践のプロセス」発表 ○第30回日本福祉文化学会東海大会側面的支援 	第23回 子どもを育む地域づくりその意識と実態調査(あしたの日本を創る協会助成)	No.118, 119, 120, 121
2019年 平成31年 令和1年 ㉒	子どもを育む福祉コミュニティの再構築と地域ぐるみのささえあいの仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○総会・第1回公開型研修会「子どもと福祉文化を語ろう」 ◆第2回公開型研修会「地域の子ども支援の実践に学ぶ」 ◆第3回公開型研修会「大人が変わる, 地域が変わる, 子どもが変わる, ホットとする地域とは」 ◆第18回静岡県福祉文化研究セミナー「福祉文化と子ども」 ◆共創社会研究会設置(3回開催) ○「いかずい北川原」居場所協力(焼津市) ▲あしたの日本を創る協会「2019年度全国的な課題」助成事業 ◆静岡県社会福祉協議会ふれあい基金地域福祉・ボランティア活動等助成事業 ○「焼津福祉文化共創研究会」協力 	<ul style="list-style-type: none"> *第23回 子どもを育む地域づくり② *第24回 100名の子どもたちに聞きましたホットとする地域ですか(静岡県社協ふれあい基金助成事業) 	No.122, 123, 124, 125, 126, 127

静岡福祉文化を考える会 26年の歩み

★印日本福祉文化学会主催(本会共催) ※印静岡福祉大との共催 ○印本会主催 △印社会福祉法人ハルモニアとの共催 ■印静岡県委託事業
 ☆印ふじのくに未来財団助成事業 ▲印公益財団法人あしたの日本を創る協会助成事業 ◆印 静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業
 ◇印公益財団法人さわやか福祉財団助成事業 ◎印焼津福祉文化共創研究会協働事業 ※印静岡県共同募金会(赤い羽根共同募金)助成事業

年度	活動テーマ	実績	調査研究	機関誌発行
		○静岡県コミュニティづくり推進協議会「令和発・コミュニティ読本」編集協力 (「若者発 ご近所福祉かるた」掲載協力) ○「若者発 ご近所福祉かるた」(拡大かるた)の有効活用 ◆子ども実践地区検証事業(4 地区)		
2020 年 令和2年 ⑫	つなご近所の再構築 決め手は一体何か ご近所福祉の復活①	○総会・第1回公開型研修会(資料配布) 「私のご近所 これからのご近所を創る」 ○第2回公開型研修会「ご近所を診断する」 ○第3回公開型研修会 「これで安心 ホットするご近所」 ○第19回静岡県福祉文化研究セミナー 「ホットするご近所のささえあいは誰が創る？」 ○「いかに北川原」居場所協力(焼津市) ○「焼津福祉文化共創研究会」との協働 ○「若者発 ご近所福祉かるた」の有効活用 ○関係機関・団体との情報提供 ○本会ブログ立ち上げ ○「日本福祉文化学会」HP と「焼津福祉文化共創研究会」ブログとのリンクによる情報共有 ○本会25周年記念調査報告書発行 ・みずほ教育福祉財団助成事業決定(プロジェクター機材)	第25回ご近所福祉その意識と実態調査	No.129,130,131 132,133
2021 年 令和3年 ⑬	地域を家庭化する“ご近所福祉”を創る支え合いを探る	○総会・第1回公開型研修会 「ご近所福祉その意識と実態から、課題提起を探る」 ○第2回公開型研修会 「住民福祉教育の成果とご近所福祉かるたの活用」 ○第3回公開型研修会 「地域を家庭化する“ご近所福祉”を創る支え合いを探る」 ○第20回静岡県福祉文化研究セミナー 「ご近所福祉と福祉文化」 ○「焼津福祉文化共創研究会」との協働 ※静岡県共同募金会助成事業 「若者発 ご近所福祉かるた」の活用拡大と住民福祉教育開拓事業 ・若者発ご近所福祉かるた100セット増刷作成 ・若者発ご近所福祉かるた利用の手引き作成(200部) ・共創社会実現研究会設置(外部委員3名)とかるた有効活用議論 ・かるた活用状況調査実施 ○関係機関・団体との情報提供 ○本会ブログ継続維持と「焼津福祉文化共創研究会」ブログとのリンクによる情報共有 ▲あしたの日本を創る協会「政策提言」助成事業 ◇さわやか福祉財団地域ささえあい基金助成事業 ・鈴与マッチングギフト助成事業決定(拡大かるた2セット作成) ・静岡市ボランティア団体連絡協議会加盟継続 ・日本福祉文化学会団体会員加入(新規) ・小さな親切運動本部発行「小さな親切」季刊誌に「若者発 ご近所福祉かるた」記事掲載	第26回福祉ってなに？ 461名の子もたちに聞きました調査 (さわやか福祉財団、あしたの日本を創る協会助成事業)	No.134,135 136,137,138



第 1 回共創社会実現研究会開催
(2021 年 5 月 22 日)



第 20 回静岡県福祉文化研究セミナー開催
(2021 年 11 月 27 日)

2021年度 静岡福祉文化を考える会活動計画

活動テーマ：地域を家庭化する“ご近所福祉”を創る支え合いを探る

阪神淡路大震災発生1年後、「災害と福祉文化」を追求する「地方発 福祉文化の創造」に取り組む市民活動団体として結成（1996年9月）して、26年目を迎えた。結成当初から、「3つの活動基調」を掲げてきた。

- 第一、「専門性と市民性の融合の関わり」
- 第二、「公開型地域総合型学習の企画と実践」
- 第三、「地域課題解決に向けたプロセス重視」

この「活動基調」をもとに、さらに、次の「3つの柱立て」をもとに25年間活動を展開してきた。

- 第一の柱立て「啓発学習事業」
「静岡発（地方発）福祉文化の創造」を目指して、県内各地の実践活動に学び、「課題提起」をして「地域総合型学習」に取り組んできた。
- 第二の柱立て「調査研究事業」
県民の協力により、一貫して、その時代の地域社会問題をテーマに調査研究活動に取り組み、その結果をその都度県民とともに地域総合型学習をし、課題解決に向けた議論を深めてきた。
- 第三の柱立て「実践地区活動事業」
広く県内各地の実践事例を共有し合い「地域診断」のもとに、豊かな地域性を把握し、さまざまな実践活動を展開し、「協働」による福祉問題の解決のプロセスの重要性を確認してきた。

今、厳しい社会情勢に直面し、改めて、いかにして、つながる・支え合う地域社会づくりができるかが問われる時期でもある。本会が調査研究事業で追求してきた「地域コミュニティ」は、年々、地域社会全体の個人志向化・希薄化と共に、福祉コミュニティ組織運営の難しさも感じられている。

今こそ、「当たり前のことが当たり前ができる社会」、「助け合い、助けられる地域社会」を再構築するために、本会のこれまでのプロセス重視から、2021年度の本会活動テーマを「地域を家庭化する“ご近所福祉”を創る支え合いを探る」を掲げる。そして、「地域環境」を再構築するために、地域住民一人ひとりが、住み慣れた生活圏域で「ご近所の支え合い」に向けた新たな取り組みを検証する。

本会では、これまでに7年間静岡県委託事業「一人でも安心して暮せる地域づくり事業」に取り組んだ。そして、「ホッと私のご近所福祉を語る」をテーマに、2013年度～2015年度までの3年間、若者と共に「生活圏域におけるささえあい」（ご近所福祉）を議論し合い、福祉文化実践活動を展開し、「若者発 ご近所福祉かるた」（赤い羽根共同募金助成事業・鈴与マッチングギフト助成事業）を企画制作し、県内各地に、具体的な「住民福祉教育」の推進に役立つ「ご近所福祉を学ぶ」教材として有効活用した。

「若者発 ご近所福祉かるた」が誕生して7年目を迎えた今、今こそ「ご近所福祉の復活」を願い、これまでの成果物の有効活用度合いを把握するとともに、「焼津福祉文化共創研究会」との協働により、新たに「共創社会実現研究会」を立ち上げ、さらに、様々な領域における「ご近所福祉の見える化・分かる化」の取り組みが拡大できる環境を開拓し、「ご近所福祉かるた利用の手引き」の作成を通じて、より実践的・体験的地域活動を呼び掛ける。

1. 2021年度全体会（総会／第1回公開型研修会）の開催

- 日時：2021年05月22日（日）13:30～16:00
- 会場：静岡市清水区追分3-5-17「寄ってっ亭」
- 内容：研修テーマ【「ご近所福祉その意識と実態」からの課題提起を探る】
 - (1) 基調報告①「この2020年を振り返る 26年目への挑戦・ご近所福祉の意義」
 - (2) 基調報告②「若者発 ご近所福祉かるたの誕生」
 - (3) 円卓トーク「ご近所福祉を作り出すコツ」

2. 委員会の開催

- * 実務型委員会構成を基に，[代表]，[副代表]，[事務局長・次長]，[会計]，[監事]，[委員]が一丸となって，活動の進捗状況管理と検証に努める。
- * 原則，「公開型研修会」開催日の前段に開催する。
- * 広く会員や一般社会人にも参加を呼びかけ「公開型研修会」として位置付ける。
- * 必要に応じて，委員会開催は，次の通りとする。
 - 第1回：2021年04月24日（土）13:30 静岡市清水区追分「寄ってっ亭」内
 - 第2回：2021年05月22日（土）10:00 静岡市清水区追分「寄ってっ亭」内
 - 第3回：2021年07月03日（土）13:30 静岡市清水区追分「寄ってっ亭」内
 - 第4回：2021年09月11日（土）10:00 静岡市葵区 静岡県総合社会福祉会館内
 - 第5回：2021年11月27日（土）10:00 静岡市葵区 静岡県総合社会福祉会館内
 - 第6回：2022年02月26日（土）10:00 静岡市葵区 静岡県総合社会福祉会館内

3. 研修・討議活動

(1) 公開型学習会の開催

「定例委員会」をこれにあて，会員相互の情報交換の場及び日常的な実践活動につなげる。一般社会人参加も呼び掛ける。

(2) 公開型研修会の開催

- 第1回
 - 日時：2021年05月22日（土）13:30～16:00
 - 会場：静岡市清水区追分3-5-17「寄ってっ亭」
 - 内容：研修テーマ【「ご近所福祉その意識と実態調査」からの課題提起を探る】
 - ① 基調報告①「この2020年を振り返る 26年目への挑戦・ご近所福祉の意義」
 - ② 基調報告②「若者発 ご近所福祉かるたの誕生」
 - ③ 円卓トーク「ご近所福祉を創り出すコツ」
- 第2回
 - 日時：2021年09月11日（土）13:30～16:00
 - 会場：静岡県総合社会福祉会館1F102会議室
 - 内容：研修テーマ【住民福祉教育の成果とご近所福祉かるたの活用】
 - * 住民主体のご近所福祉構築に向けた「ご近所福祉かるた」の有効活用を探る。
- 第3回
 - 日時：2022年02月26日（土）13:30～16:00
 - 会場：静岡県総合社会福祉会館1F102会議室
 - 内容：研修テーマ【地域を家庭化する“ご近所福祉”を創る支え合いを探る】
 - * 各領域における「ご近所福祉かるた」の活用事例に学ぶ。

(3) 「第20回福祉文化研究セミナー」の開催

- 日時：2021年11月27日（土）13:30～16:00
- 会場：静岡県総合社会福祉会館7F701会議室
- テーマ：【ご近所福祉と福祉文化】
 - ① 基調報告①「静岡発 福祉文化研究セミナーの20年を振り返る」
 - ② 基調報告②「若者発 ご近所福祉かるた その動き～手引書を紹介～」
 - ③ 円卓トーク「ご近所福祉を描く～若者発 ご近所福祉かるたで地域を創る～」

4. 調査研究活動

(1) テーマ『私にとって“福祉”とは何か? その意識と実態調査』の実施

(a) ねらい

「静岡福祉文化を考える会」は、この25年間「静岡発 福祉文化の創造」を目指した実践活動の大きな柱立ての一つに、その時代の地域社会を取り巻く様々な福祉課題を調査テーマとした「調査研究活動」に取り組んでいる。また、その分析結果を、県内各方面での研修会や本会の公開型研修会などで公表し、世代を超えた「地域総合型学習」を通じて問題提起をし、県民一人ひとりの意識改革に努めてきた。

これまでの調査研究活動を振り返ると、

- 1997年度 1. 「共働きに関する調査」
- 1998年度 2. 「私たちにとって、地域とは何かーその1ー意識と実態調査」
- 1999年度 3. 「私たちにとって、家族とは何か調査」
- 2000年度 4. 「父親に関する調査」
- 2001年度 5. 「ボランティア活動実践者意識調査」
- 2002年度 6. 「大人を対象とした生きがいと就労に関する意識調査」
- 2003年度 7. 「青少年の生きがいに関する調査」
- 2004年度 8. 「地域とは何かーその2ー意識と実態調査」
- 2005年度 9. 「子どもと社会環境に関する調査」(継続調査)
- 2006年度 10. 「子どもと社会環境に関する調査」(総括)
- 2007年度 11. 「地域活動と団塊の世代の役割に関する意識調査」
- 2008年度 12. 「長寿者の生きがい、その意識と実態に関する調査」(静岡県共同募金会助成事業)
- 13. 「日常生活と福祉情報に関する意識調査」(静岡県委託事業)
- 2009年度 14. 「長寿社会に関する県民意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 2010年度 15. 「いまこそ地域社会に福祉文化を拓く 生活圏域における支え合いとは何か本音に迫る調査」(静岡県委託事業)
- 2011年度 16. 「地域と私の居場所その意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 2012年度 17. 「家族ってなにその意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 2013年度 18. 「長寿者とつながるホッとすご近所づくりその意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 2014年度 19. 「豊かに暮らせる地域づくりその意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 2015年度 20. 「若者の地域参加その意識と実態調査」
- 2016年度 21. 「ご近所福祉その意識と実態調査」
- 2017年度 22. 「居場所ってなにその意識と実態調査」
- 2018年度 23. 「子どもを育む地域づくりその意識と実態調査」(単純集計)
- 2019年度 「子どもを育む地域づくりその意識と実態調査」(静岡県社協ふれあい基金助成事業・考察提言)
- 24. 「256名の子どもたちに聞きました。ホッとする地域ですか?」(静岡県社協ふれあい基金助成事業・考察提言)
- 2020年度 25. 「ご近所福祉その意識と実態調査」

と、「25のテーマ」の調査研究活動に取り組んできた。通算26回目となる今年度は、活動テーマ「地域を家庭化する“ご近所福祉”を創る支え合いを探る」に基づき、児童(小学校5・6年生)を対象に「私にとって“福祉”とは何か? その意識と実態調査」に取り組む。

- (b) 調査項目：①基本属性、②生活状況、③家庭・家族/地域に関すること、④福祉に関する意識に関すること、⑤福祉に関する実態に関すること、⑥福祉社会への期待、⑦自由意見(提言)の7項目とする。詳細は「調査部会」で検討する。
- (c) 調査展開：①調査実施期間(8月～9月)、②入力期間(10月～11月)、③分析・考察(12

月～1月), ④公表(3月)を予定。

(d) 対象: 静岡県内に居住する児童(小学校5・6年生)

(e) 回収目標: 300名程度

(f) 調査依頼・配布方法: 会員(21名), 地域実践者, 関係団体・施設, 企業

(2) 共創社会実現研究会の設置と運営

① 設置目的

「活動テーマ」をもとに, 本会委員会と並行して「共創社会実現研究会」(県内実践活動者として外部から3名委嘱, 4回程度開催)を設置し, 実践活動からご近所福祉について, 広く意見を求め, 具体的な課題を基に, これからの地域づくりへの提言をまとめる。また, 「若者発 ご近所福祉かるた」の有効活用と共に, 活用方法について研究協議をする。

② 議論した内容を基に, 「若者発 ご近所福祉かるた利用の手引書」としてまとめ, 「若者発 ご近所福祉かるた」配布団体・グループ等に配布。マスコミ等への情報提供を通じて, 広く県民に広報啓発する。

(3) 「若者発 ご近所福祉かるた手引書」作成

① 仕様: A4判, カラー及び単色, 20ページ以内, 200部発行

② 作成過程: 本会委員会及び「共創社会実現研究会」の設置, 「焼津福祉文化共創研究会」との協働により, 5月～11月まで研究協議を継続し, その後編集執筆作業に入り, 1月配布予定。

③ 配布領域: 「若者発 ご近所福祉かるた」配布団体, グループ等(学校, 地域実践領域, 学童保育, 社会教育, さわやかクラブ, コミュニティ実践団体等)

5. 広報・啓発活動

(1) 機関紙発行計画に基づく『Our Life』の発行

- ✓ 年5回(500部)発行, A4版, 上質紙印刷
- ✓ 「地方発福祉文化の創造」論議や実践活動を会員及び関係方面に具体的に情報発信する。
- ✓ 各号共通記事: 「編集後記」, 「ご近所福祉コーナー」, 「事務局日誌拝見」
 - 第134号(05/15)『25年の節目から, 新たな静岡発福祉文化の創造を探る』
 - 第135号(07/15)『地域を家庭化する“ご近所福祉”』
 - 第136号(09/15)『若者発 ご近所福祉かるたの原点と地域総合型学習』
 - 第137号(12/15)『福祉文化が根付く地域社会とは 第20回セミナーを終えて』
 - 第138号(03/15)『26年間の福祉文化実践のプロセス』

(2) 日本福祉文化学会HPと本会ブログのリンクによる「地方発 福祉文化の創造」の発信

(3) 「焼津福祉文化共創研究会」ブログのリンクによる「福祉文化の創造」の発信

(4) マスコミ, 関係機関・団体への情報提供

6. 実践活動「若者発 ご近所福祉かるた」増刷及び有効活用による「ご近所福祉」の検証

7年間の県委託事業「一人でも安心して暮せる地域づくり事業」から浮彫になった“ご近所福祉の再構築”を若者の視点から論議を深め, 提言された読み札を精査し, かるたの創造に向けて取り組み, 平成27年度に「若者発 ご近所福祉かるた」を100セット作成し, 今年度7年目を迎えた。また, 平成28年度に作成した「若者発 ご近所福祉かるた 拡大版」2セットを有効活用して6年目になる。

幼児から大人まで, 身近な地域の実践活動の場や行事の場で, 「地域総合型学習」として楽しみながら活用し, 安心して暮し合う生活圏づくりをさらに目指すため, 関係機関・団体との「協働」に

より、これまで個人、地域実践者、施設・グループ・サロン等に配布・設置した「かるた」の活用状況を把握するとともに、今年度、新たに「かるた」を100セット増刷し、新規活用団体・グループに提供し、「かるた」の活用範囲を広げ、地域社会に「ご近所福祉」を課題提起し、検証を深める。

7. 現場視察研修による検証

県内の「ご近所のささえあい活動」（主に「かるた」配布先の活動）の実践地区を計画的（東部・中部・西部）に訪問し、ご近所福祉の検証に努め、これからの地域社会づくりへの提言につなげる。

8. コミュニティ組織との連携

コミュニティ組織との連携に努め、「かるた」の配布地域の開拓とともに「ご近所」について、広く地域住民の意見を把握することに努める。

9. 関係・団体との協働・連携

- (1) 「静岡県共同募金会」との連携（2021年度共同募金助成事業に関する定期的な状況報告実施）
- (2) 「焼津福祉文化共創研究会」との協働による諸活動の展開と、小地域福祉活動の連携による「近所」の取り組みの現場に学ぶ実践活動を県域に共有していく
- (3) 「静岡県コミュニティづくり推進協議会」との連携（かるた配布団体・グループ推薦と事業関連情報提供）
- (4) 「日本福祉文化学会」への情報提供
- (5) 「関連大学・専門学校」への情報提供
- (6) 「静岡市ボランティア連絡協議会」との連絡調整及び情報提供
- (7) 「ふじのくに未来財団」への情報提供
- (8) 県内外の関連研究会等と「近助」に関する情報提供
- (9) 福祉コミュニティ組織における実践的取り組みをしている地域の把握と情報交換
- (10) 「若者発 ご近所福祉かるた」配布団体・グループ等との日常的連携（施設、NPO法人、Vグループ）
- (11) 「静岡県社会福祉協議会及び市町社協」との連携（情報提供）
- (12) 「あしたの日本を創る協会」への情報提供



第1回公開型研修会
(2021年5月22日開催)



第3回共創社会実現研究会
(2021年9月11日開催)



若者発 ご近所福祉かるた増刷版1



若者発 ご近所福祉かるた増刷版2

Life・Culture & Welfare

地域から発信 福祉を文化へ

静岡福祉文化を考える会

代表 平田 厚

〒424-0841 静岡市清水区追分 3-5-17

NPO 法人泉の会内 Tel 054-367-2878 Fax: 054-367-2884

編集委員

藤下品子 古屋貴彦 河野恵介 平田厚

Our Life 134号

- * 内 容 *
- 2021年度赤い羽根地域福祉活動助成事業決定P.1
 - 「共創社会実現研究会」を設置し、2021年度事業が始動P.2
 - 「ご近所福祉その意識と実態調査報告」シリーズ①P.3
 - 2021年度「第2回公開型研修会開催案内」「事務局日誌拝見」「編集後記」P.4

2021年度赤い羽根地域福祉活動助成事業決定

“若者発ご近所福祉かるた”活用拡大と住民福祉教育の開拓に取り組む

2021年度事業に向けて、昨年5月に静岡県共同募金会に「赤い羽根共同募金助成事業」申請した。その後、審査会を経て、このたび、助成決定をいただいた。事業タイトルは「“若者発 ご近所福祉かるた”活用拡大と福祉教育開拓事業」。今年度の本会の活動テーマ『地域を家庭化する “ご近所福祉”を創る支え合いを探る』を具現化していく福祉文化実践活動である。主な内容は、「共創社会実現研究会」の設置、「平成27年度赤い羽根共同募金助成事業」により制作した「若者発 ご近所福祉かるた」の増刷、そして「かるた利用の手引書」の制作に取り組む。改めて、「若者発 ご近所福祉かるた」の誕生の経緯を振り返ると、平成20年度から平成26年度の7年間、県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」に取り組んだ。その展開は、一貫して、世代や領域を超えた“ご近所福祉の再構築”に向けた協議を積み重ね、各種公開型研修会等様々な学び合いの中から、若者中心とした研修参加者が、現実の社会を直視しながら語り合う中で、「かるたの製作構想」が浮上し、「読み札」の創作取り掛かった。

また、併行して「長寿者宅訪問型研修会」を開催し、若者中心に、約5か月間に、分散型で延べ152名が長寿者（100歳）宅を訪問し、尊い「ご近所福祉」を学び合い、200余のキーワードを浮き彫りにするなど、地域の現状と課題を整理する作業を重視した。

これからの地域総合型学習を深めるために、「かるた」の活用方法や各地域への普及方法について協議を深めた経緯がある。一方、「絵札」の製作については、長年、福祉活動にご理解をいただいている、漫画家 法月理栄様のご理解とご支援をいただき、制作に全面的な協力をいただき実現する運びとなった。

このたびの「赤い羽根共同募金助成事業」の具体的な取組みは、

- (1) 平成27年度に配布・設置した関係団体等の活用状況等を把握。(5月中)
- (2) 「共創社会実現研究会」設置(期間中4回 5月/7月/9月/11月)
これまでの事業の検証と今年度の企画及び活用方法(手引書作成)と新規配布設置開拓計画、ご近所福祉と地域づくり(協働)の提言。
- (3) 「若者発 ご近所福祉かるた」の増刷作業(100セット)
- (4) 「若者発 ご近所福祉かるた利用の手引き書」の作成(200部作成)
を「共創社会実現研究会」等により企画検討し編集する。
- (5) 活用拡大と有効活用に向けた研究協議。
- (6) より身近な住民の生活圏域において活動する「焼津福祉文化共創研究会」
「協働」による取り組みにより連携を深め成果をあげる。
- (7) 成果物をもとに、県内各地域で、世代を超えた具体的な実践の場において活用方法や、地域づくりについて検証し、地域課題解決に向けた住民福祉教育の開拓に取り組む。
- (8) 本事業を「ご近所福祉による地域づくり(共同募金活動の広報啓発活動を含む)」を各委員会及び「共創社会実現研究会」において総合的に検証する。



Life・Culture & Welfare

地域から発信 福祉を文化へ

静岡福祉文化を考える会

代表 平田 厚

〒424-0841 静岡市清水区追分 3-5-17

NPO 法人泉の会内 Tel:054-367-2878 Fax: 054-367-2884

編集委員

藤下品子 古屋貴彦 河野恵介 平田厚

Our Life 135号

- * 内容 *
- 第2回共創社会実現研究会開催P.1
 - 「共創社会実現研究会」を設置し、2021年度事業が始動P.2
 - 「ご近所福祉その意識と実態調査報告」シリーズ④P.3
 - 2021年度「第2回公開型研修会開催案内」「事務局日誌拝見」「編集後記」P.4

2021年度赤い羽根地域福祉活動助成事業「第2回共創社会実現研究会」開催

これまでの「若者発」ご近所福祉かるた活用検証と増刷かるたの有効活用を議論



「2021年度“若者発ご近所福祉かるた”の活用拡大と住民福祉教育開拓事業」（令和3年度・静岡県共同募金助成事業）に取り組んでいる本会は、5月22日に開催した「第1回共創社会実現研究会」に引き続き、7月3日（土）静岡県総合社会福祉会館で「第2回研究会」を開催した。

6月8日に印刷発注した「若者発ご近所福祉かるた増刷分100セット」は、計画通り6月30日に納品（左上写真）されて報告と、静岡県共同募金会から取り寄せた「赤い羽根共同募金マーク」を、「かるた」に貼りあわせ（左下写真）、今後、「かるた」の利用を通じて、県内に広く「赤い羽根共同募金活動」を啓発できるように取り組んでいることを説明した。次に、5年前（平成27年度）に、「若者発ご近所福祉かるた」が誕生し、地域福祉教育の推進に「見える化」する教材として、県内各地に配布した「かるた」のこれまでの「活用状況調査結果報告」を基に検証し、このたび、増刷した「かるた」の更なる有効活用に向け、配布領域を議論した。



「活用状況調査」は、16団体・グループ依頼し、8団体・グループから回答をいただいた。

回答結果から、今年度のかるたの有効活用のための配布方法・配布先、住民福祉教育の開拓に向け、次の8つの課題を整理した。

①継続的活用のための「かるた」の引き継ぎ・実績記録の作成呼び掛け、日常的・計画的活用の位置づけと広啓発活動。②「かるた利用の手引書」の作成による、「ご近所福祉」のあり方を考え、これからの地域づくりへの関心を高める努力。③目的意識をもって活用するための啓発研修会の開催、地域の担い手の発掘と住民福祉教育の必要性の呼びかけ。④すべての住民による世代を超えた住民主体による地域ぐるみの地域づくりの呼びかけ。⑤住民からの発想で新たな「かるた」の活用の開拓の呼びかけ。⑥配布計画と活動継続に向けた財源確保。⑦住民福祉教育の拡大と共に、「協働」による事業の展開 ⑧活用領域の開拓と「地域づくり」の推進。

本助成事業のもう一つの取組み「“若者発”ご近所福祉かるたを有効活用するための利用手引書」の作成の具体的な協議は、次回とし、今回は、「企画書」（基本計画）を説明した。

「着眼項目」として、(1)「ご近所福祉って何」を学ぶ(2)「若者発はどこから生まれた…そして、なぜ強調するのか」を学ぶ(3)46セットの「かるた」の内容を学ぶ(4)「かるた」から「キーワード」を学ぶ(5)「かるた」の活用方法を紹介(6)「かるた」利用カードの提示。

「作成過程」(1)起案時期：令和3年5月(2)編集協議期間：令和3年5月～10月(3)編集期間：令和3年10月～11月(4)発行12月。「仕様」A4版、表紙及び裏表紙・カラー印刷、22P100部発行。



Life・Culture & Welfare

地域から発信 福祉を文化へ

静岡福祉文化を考える会

代表 平田 厚

〒424-0841 静岡市清水区追分 3-5-17

NPO 法人泉の会内 Tel:054-367-2878 Fax: 054-367-2884

編集委員

藤下品子 古屋貴彦 河野恵介 平田厚

Our Life 136号

- * 内容 *
- ご協力に感謝 子ども対象調査336枚回答/第3回共創社会実現研究会開催 …………… P.1
 - 「若者発ご近所福祉かるた」に集中した「第2回公開型研修会」開催……………P.2
 - 増刷した「“若者発” ご近所福祉かるた」 配布計画に基づく作業順調に進む……………P.3
 - 「ご近所福祉その意識と実態調査報告」シリーズ⑤……………P.3
 - 「第20回静岡県福祉文化研究セミナー開催案内」「事務局日誌拝見」「編集後記」…………… P.4

●公益財団法人さわやか福祉財団、公益財団法人あしたの日本を創る協会助成事業 ご協力感謝します! 「福祉ってなに? 300名の子供たちに聞きます」調査研究活動

9月15日現在 336枚の尊い回答が届きました。

厳しいコロナ禍下の意見を、これからの地域づくりへの提言として取りまとめていきます。

本会が、2021年度重要事業として取り組んでいる「調査研究事業」。「公益財団法人さわやか福祉財団・地域助け合い基金」及び「公益財団法人あしたの日本を創る協会・政策提言課題」から、多大なご支援のもと、助成事業として取り組んでいる調査活動「福祉ってなに? 300名の子供たちに聞きます」。小学4年生から6年生までを対象に、7月25日から8月末までの夏休み期間を中心に約90か所600枚を県内各領域にお願いした。厳しいコロナ禍下、子どもたちを集めた地域行事ができない中、果たして、目的に沿った取り組みが出来るか心配したが、9月15日現在、東部地区128枚(38%)、中部105枚(31%)、西部103枚(31%)、計336枚が届いた。地域実践者から全体の50%、市町社会福祉協議会30%、会員・施設20%。

結成以来25年間、主に、大人社会を対象に取り組んできた調査活動から、地域住民相互のつながりやささあいが弱くなり、地域コミュニティへの関りについて、その意識と実態がさらに希薄化していることが浮き彫りになった今日、こうした、地域環境で生活している、次世代を担う子どもたちの「思いやりの心」が、確実に醸成されているか、加えて、厳しいコロナ禍の続く今日にあって、子どもたちの福祉に対する意識と実態の現状はどうか問い質すことを目的に、「焼津福祉文化共創研究会」「共創社会実現研究会」との「協働活動」として実施。

9月15日を回収期限とし、現在、会員によるデータ入力作業が続いている。調査の経過報告は、随時「OUR LIFE」に掲載する。最終報告会は、「第3回公開型研修会」(2月26日・土曜日13:30 静岡市葵区駿府町 県総合社会福祉会館 1階102会議室)において、「調査報告書」をもとに開催をする。

“若者発 ご近所福祉かるた”の活用拡大と住民福祉教育開拓事業 第3回共創社会実現研究会では、「子ども対象調査の意義」「かるた利用手引書作成」を議論

2021年度静岡県共同募金会・広域地域福祉活動助成事業「“若者発 ご近所福祉かるた”の活用拡大と住民福祉教育開拓事業」を円滑に展開するために設置した「共創社会実現研究会」の第3回研究会を9月11日(土)静岡県総合社会福祉会館で開催した。大詰めを迎えた「子ども対象調査実施状況」そして、「若者発 ご近所福祉かるた」の有効活用と住民福祉教育の開発に向けた手引書作成 中心に議論をした。委員からは「地域に3年前に組織化した子供ボランティア隊の子供たちに調査をお願いした。ちょっとボランティアで何が変わるか期待をしている。」「いかに、地域とつながりを持つかは、多くの体験を通して学ぶことができる。」「大人たちは日常生活の中で、ほめる機会を創る努力が大切」等、大人社会の地域づくりへの努力を語り合った。



Life・Culture & Welfare

地域から発信 福祉を文化へ

静岡福祉文化を考える会

代表 平田 厚

〒424-0841 静岡市清水区追分 3-5-17

NPO 法人泉の会内 Tel054-367-2878 Fax: 054-367-2884

編集委員 藤下品子 古屋貴彦 河野恵介

Our Life 137号

*
内
容
*

- 「福祉ってなに? 461名の子どもたちに聞きました」調査考察作業開始 …………… P.1
- 令和3年度 鈴与マッチングギフト助成事業決定 …………… P.2
- 5年間の蓄積をもとに「若者発」ご近所福祉かるた利用の手引き」完成…………… P.3
- 「ご近所福祉その意識と実態調査報告」シリーズ⑥(完) …………… P.4
- 「事務局日誌拝見」「編集後記」…………… P.4

●公益財団法人さわやか福祉財団、公益財団法人あしたの日本を創る協会助成事業 「福祉ってなに? 461名の子どもたちに聞きました」調査 考察作業開始

「福祉ってなに? 300名の子どもたちに聞きます」調査研究事業は、公益財団法人さわやか福祉財団の「地域助け合い基金助成事業」、公益財団法人あしたの日本を創る協会の「政策提言助成事業」のそれぞれの支援をいただき、4月から準備を進め、6月から下記の通り「調査部会」を設置し、計画的に取り組んでいる。

月	展 開 方 法	備 考
6月	第1回(6/3) (1)設置趣旨確認と昨年度の総括と現状確認 (2)子ども対象福祉意識と実態調査事業の基本方針 第2回(6/26) 子ども対象福祉意識と実態調査事業(調査項目)	・財源確保努力
7月	第3回(7/9) 子ども対象福祉意識と実態調査事業(調査配布方法・配布) 第4回(7/31) 子ども対象福祉意識と実態調査事業(調査回収努力)	・ブログ検証
8月	第5回(8/18) 子ども対象福祉意識と実態調査事業(調査集計・クロス①)	
9月	第6回(9/11) 子ども対象福祉意識と実態調査事業(調査集計・クロス②) 第7回(9/25) 子ども対象福祉意識と実態調査事業(調査集計・クロス③)	
10月	第8回(10/7) 子ども対象福祉意識と実態調査事業(分析作業①) 第9回(10/23) 子ども対象福祉意識と実態調査事業(分析作業②)	・ブログ検証
11月	第10回(11/30) 子ども対象福祉意識と実態調査事業(報告書編集①)	
12月	第11回(12/18) 子ども対象福祉意識と実態調査事業(報告会企画)	・ブログ検証
1月	第12回(1/8) 子ども対象福祉意識と実態調査事業(報告会具体化)	
2月	第13回(2/5) 子ども対象福祉意識と実態調査事業(調査報告会広報)	
3月	第14回(3/12) 2021年度事業総括と2022年度の方向性確認	・協働の検証

10月19日をもって、調査票の回収を取りまとめた結果、300枚を目標とした予想を大きく上回る461枚の回答をいただいた。その内訳は、下記の通りである。

	会 員	市町社会福祉協議会	地域実践者	施設・団体	総 数
依頼領域数	60	200	300	50	610
回収実績数	22	112	285	42	461
パーセント	37%	56%	95%	84%	75.6%

*地区別回収数

	東部地区	中部地区	西部地区	計
回収実数	137枚	103枚	221枚	461枚
地区別%	29.7%	22.3%	48.0%	100%

既に、単純集計及びクロス集計作業が終わった。本事業の今後の予定は、「調査部会」において、協議を積み重ねつつ、11月データ集計内容を検討し、11月から12月にかけて、データ分析執筆作業に取り組んでいる。1月下旬までに、「調査報告書」としてのページ仕立てをし、「完全原稿」で入稿(シブヤ印刷芸社)。

2月中旬に納品、その後、今年度第3回公開型研修会を2月26日(土)13:30静岡市内の県総合社会福祉会館1階102会議室において調査報告を開催。3月中旬助成事業実施報告書を提出して事業を完了する。

①

「ご近所福祉」課題は？

葵区で公開研修会 県民調査の結果共有

静岡福祉文化を考へる会(平田厚代表)はこのほど、2020年度の第3回公開研修会を静岡市葵区で開いた。同年10月に県民を

対象に実施した「地域との関わり合い」に関する調査の結果を共有する。研修会には、身近な生活圏域で「ご近所福祉」の推進



「ご近所福祉」の推進に向けた課題を話し合う参加者
＝静岡市葵区

に向けた課題を話し合った。調査は近隣住民との関わり合いの実態や地域運営への参加の動向などをアンケート形式で問い、20歳以上の県民753人の回答を得た。研修会には県内の自治会役員や民生委員ら7人が参加し、回答者の95%以上が地域の人との交流は大切と認識していることを確認した。一方、若い世代ほど実際の近所付き合いは希薄化していて、地域「コミュニティーの必要性にも「わからぬ」と答えた人が多いことを課題に挙げた。平田代表は「なぜ地域で福祉活動が必要なのか、若い世代を中心に『見える化』『わかる化』していく工夫が必要」と述べた。

近所付き合い 希薄化の傾向 県民調査報告書

静岡福祉文化を考へる会(平田厚代表)はこのほど、25年間の活動の総括として「近所福祉の意識と実態」をテーマに2020年度行った調査・研究活動の報告書を作成した。県民753人にアンケートを実施した。同じテーマで11年度と16年度に行った調査結果と比較し「近所付き合いは消極的で希薄化している」「コミュニティーの機能が住民に十分に理解されていない」などの分析結果をまとめた。報告書ではコロナ禍

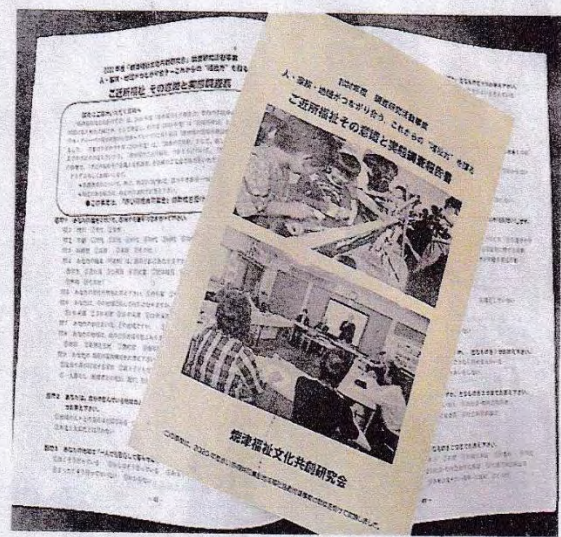
において地域の関わりはより希薄化傾向にあると推察。改めて互助の再構築に取り組む必要があると問題提起した。住民に対する地域福祉の重要性の周知や、若い世代への日常的な呼び掛けが必要と解決策を考察した。平田代表は「コロナ禍でコミュニケーションをとることは難しい側面があるが、日頃の何げないあいさつや会話が地域づくりにおいて重要」と話した。

焼津の団体、住民に地域活動意識調査

「日頃の声かけ」 求める意見最多

「コロナ禍、身近で支え合い」

焼津市内2自治会の地域住民でつくる「焼津福祉文化共創研究会」(平田厚代表)は自治会・町内会といった地域活動に対する住民の意識調査の報告書をまとめた。地域で必要な支援・サービス、取り組みに「日頃からの声かけ」を挙げる意見が最も多かった。平田代表は「コロナ禍の今こそ身近な支え合いを求めている」と分析する。



焼津福祉文化共創研究会がまとめた地域活動に関する報告書

調査は昨年10月に同市の港第14、第23自治会管内住民360人を対象に実施した。回答率は95・8%。地域活動について意識や実態を中心に29の質問項目を設けた。

「今後地域で困った

状態の時に必要と思う支援・サービス」に関する質問で「見守り・声かけ」が70%で最多。「地域の支え合い・助け合いの取り組みで大切なこと」の問いに「日頃からのあいさつ・声かけ等近所付き合い」を挙げる意見が76%を占めた。

「生活の支え」についての尋ねに「地域社会での支え」が27%で、「家族の支え」(46%)に次ぐ回答率だった。地域活動参加協力の呼び掛けに83%が「参加する」と答えた。

平田代表は「地域活動への期待の高さが浮き彫りになった」と話す。報告書は管内の自治会や小中学校などに配布した。

(焼津支局・福田雄一)

地域行事「参加したい」8割

焼津市内2自治会の

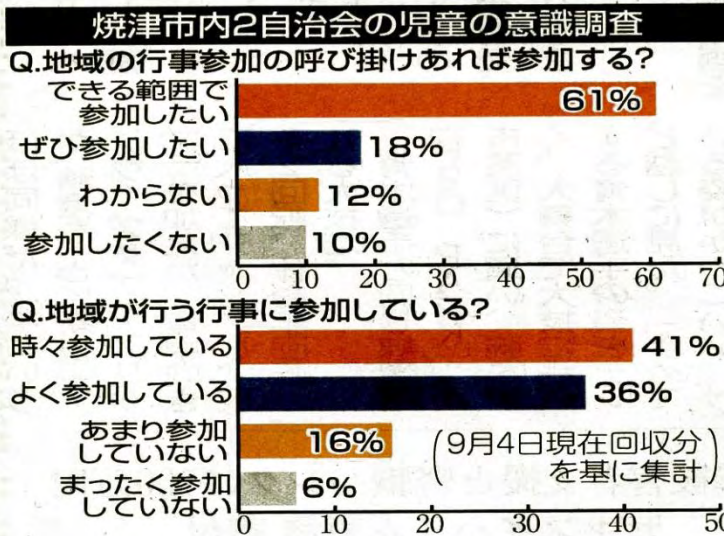
地域住民でつくる「焼津福祉文化共創研究会」(平田厚代表)は子どもたちの福祉や地域社会に対する意識調査の中間結果をまとめた。地域行事に参加するかとの問いに、8割近くの児童たちが呼び掛けがあれば参加したいと回答した。新型コロナウイルスの影響で行事の中止が続く中、子どもたちが交流を求め実態が浮き彫りになっ

た。

焼津市内2自治会の児童の意識調査

平田代表は「子ども

焼津の研究会 児童らへ意識調査



い」が合わせて79%を占めた。自分が住んでいる地域の良い点を挙げる設問では「近所の人

人が優しい」が28%で最も多かった。

コロナ禍 交流求める実態浮き彫り

「近所の人と話をするか」との尋ねに、「あいさつをするくらい」が60%、「地域の人にほめられたことがあるか」の設問では68%が「ない」と答え、近所付き合いの希薄さが浮き彫りとなった。

子どもへの積極関与 重要



地域コミュニティの再構築に向けて協議する参加者
＝静岡市葵区の県社会福祉会館

葵区 静岡福祉文化を考える会

静岡福祉文化を考える会(平田厚代表)はこのほど、「第3回共創社会実現研究会」および「2021年度第2回公開型研修会」を静岡市葵区の県社会福祉会館で開いた。地域コミュニティの再構築に向けた課題を話し合った。

地域再構築に向け討論

会員や自治会役員、民生委員ら6人が参加した。近所付き合いが希薄化した地域の中で生活する子どもたちの実態を県内の子どもたち約330人にアンケートした結果を中間報告した。平田代表は「大人から子どもへの声掛けが減少している。大人から積極的に関わっていく必要がある」と分析した。

このほか、地域の福祉方向上に向けて制作された「若者発「近所福祉かるた」の増刷決定を受け、利用手引書の企画作成に向けた協議を行った。これまでの利用方法を報告し、今後の活用策を検討した。

(社会部・北井寛人)

静岡福祉文化を考える会

新たに作成した手引きと増刷したかるた



絵札紹介活用事例示す

静岡福祉文化を考える会(平田厚代表)が「『若者発』ご近所福祉かるた」の増刷に合わせて、利用手引きを作成した。2015年度に同団体が製作したかるたについて「ご近所福祉」を学ぶ教材として再認識してほしいという思いから、完成までの経緯や活用方法の実例を記した冊子作成に踏み切った。

かるたで学ぶ「ご近所福祉」

増刷、利用手引き作成

手引きはA4判の22ページ。6章で構成し、かるたの絵札と読み札を紹介するとともに、解説文も付けた。活用事例も写真を交えて示している。かるたの作成意図が浸透しきれなかったという反省から、「ご近所福祉」の定義に触れている。

焼津福祉文化共創研究会、共創社会実現研究会の協力を得ながら200部作成した。増刷するかるたとセットで今月下旬から本格的

に配布する計画。かるたは「ありがたい優しい気持ちのおすそ分け」「会釈して通り過ぎれば顔なじみ」といった地域社会の在り方について考えさせられる内容の札46枚で構成している。

平田代表は「ご近所福祉が定着するきっかけとなつてほしい」と期待する。

(焼津支局・福田雄一)



ご近所福祉と福祉文化をテーマに意見を交わす参加者
 ー静岡市葵区の県総合社会福祉会館

「ご近所福祉」促進へ議論

葵区考える会がセミナー

静岡福祉文化を考える会(平田厚代表)は、27日、第20回県福祉文化研究セミナーを静岡市葵区の県総合社会福祉会館で開いた。会員と県内の介護、社会福祉事業の関係者ら10人

が「ご近所福祉と福祉文化」をテーマに意見を交わした。

同会は今年、2015年度に作った「『若者発』ご近所福祉かるた」を増刷したのに合わせ、製作経緯や活用事例を記した手引きも作成したと報告した。近日中に各市町の社会福祉協議会や福祉施設などへ配布する方針を示した。

意見交換では、社会的に近所付き合いが少なくなかった結果、地域福祉の重要な担い手である若者との関係性も希薄化しているとの指摘も聞かれた。同かる

たは当時の大学生が考案した標語を基に読み札を作った経緯があることから、平田代表は「かるた取りに終始せず、製作プロセスを周知して利用者の意見交換につなげてほしい」と呼び掛けた。
 (社会部・塩谷将広)



(上) 元気なあいさつで1日をスタート
(下) 学校オリジナルのアイコン



■ よりよい世界を目指して！

専修大学玉名高等学校(熊本県)は、50年以上に亘って親切運動を受け継いでいる伝統校。「小さな親切」委員が毎日、地域の清掃活動に励んでいるほか、生徒会とあいさつ委員が共同であいさつ運動「スマイルプロジェクト」を行い、学校や住民に元気と笑顔をお届けしています。これらの活動は、「SDGs」の「住み続けられるまちづくり」に関連する活動として、昨年度よりさらに力を入れています。

日々の親切運動の積み重ねが、よりよい世界の実現につながると信じ、活動を続ける生徒の皆さんが頼もしいです。今後も、学校をあげた親切運動、「SDGs」の取り組みに期待しています。

※SDGs(エス・ディー・ジーズ)は、2015年の国連サミットで採択された、

2030年までに持続可能でよりよい世界を目指すための国際的な17の共通目標。

■ 「ご近所さん」への支え合い・交流の一助に

静岡県の個人会員・平田厚さんが代表をつとめる「静岡福祉文化を考える会」では、年々希薄化する地域の人間関係に危機感を覚え、地域の若者と協力し「若者発 近所福祉かるた」を制作。「小さな親切」さりげない声かけ「見守り」などをキーワードにしたかるたによって、ご近所さんへの思いやり、声かけの大切さに気づいてもらい、世代を超えて一緒に楽しんでもらうことで、コミュニケーションを深める一助にもしてもらいたいと考えています。



地域のイベントで「かるた」を実践！



さらに「利用の手引き」では、かるた誕生の背景や地域で支え合うことの重要性を伝えています。コロナ禍により、人との距離がさらに離れてしまうことのないよう、これからも温かく住みやすい街づくりを目指します。

■ 町ぐるみの活動を続けて40年

熊本県鹿北支部(代表：津留嶋勝)は活動スタートから40周年を迎え、記念誌が完成しました。同支部は昭和60(1985)年、鹿北町議会で「小さな親切」実践の町宣言を決議するなど、町ぐるみで運動を推進。作文コンクールや「小さな親切」実行章の贈呈活動を通じ、住民の思いやりの心を育んでいるほか、コスモスの「植栽・写真コンテスト」を開催し、美しい町づくりに力を注いでいます。

記念誌には、学校での親切運動の様子や子どもたちの作文、コスモコンテストの入賞作品が掲載され、長年に亘り連綿と培われた温かな地域の様子が伝わる一冊となりました。

「小さな親切」運動熊本支部 設立40周年記念誌



「写真コンテスト」の最優秀作品が表紙を飾る

読者PRESENT

老舗バッグメーカー「ヤマト屋」の人気エコバッグを5名様にプレゼント！

東京・蔵前にある「ヤマト屋」代表取締役社長・正田誠は「人はひとのために共に生きてこそ人なり」の経営理念のもと、30年以上に亘り地域の清掃活動を続け、従業員の思いやりの心や地元愛を培ってきたとして、昨年「小さな親切」実行章を受章しました(活動と贈呈の様子は、本誌2020年・春号に掲載)。

シックな色合いで、大容量のオリジナルバッグをお買い物のお供にはいかがでしょうか。コンパクトに折りたためるスナップ付き。ご応募お待ちしております。

申し込み方法

①氏名 ②住所 ③年齢 ④本誌の感想をご記入の上、「読者プレゼント係」まで、FAXまたは応募フォームよりお申込みください。2021年12月3日(金)必着は、プレゼントの発送をさせていただきます。

●FAX:03-3263-1111

秋号

Autumn
2021
No.524

「小さな親切」誌は、季刊発行
春号・5月、夏号・8月、秋号・11月、新番号・1月の予定です

2021年11月1日発行 通巻524号

編集・発行人 鈴木恒夫

発行所 公益社団法人「小さな親切」運動本部
〒101-0061東京都千代田区神田三崎町2-20-4
TEL.03-3263-2866 FAX.03-3263-3838
https://www.kindness.jp/

Life · Culture & Welfare

地域から発信 福祉を文化へ

静岡福祉文化を考える会



◇ 静岡福祉文化を考える会事務局 ◇

〒424-0841 静岡市清水区追分 3-5-17

NPO 法人泉の会内 静岡福祉文化を考える会

☎054-367-2878 fax054-367-2884

「静岡福祉文化を考える会」の誕生とこれまで

福祉の改善・改革を「文化」の視点から検討する目的で、「福祉の文化化」「文化の福祉化」を掲げ、地域社会の様々な領域から、理論と実践をもとに1989年「日本福祉文化学会」が設立され、全国各地の福祉現場の実践家と福祉系を中心とする大学等の研究者の強固なネットワークにより、2019年で30年の節目を迎えた。

1996年3月、日本福祉文化学会から、「第11回日本福祉文化学会・公開型現場セミナー」を静岡県内で開催してほしい旨の要請を受け、10代から70代の約40名が実行委員会を結成し、企画運営、広報等多岐にわたり、セミナーの実現に向け準備に着手した。

静岡県浜松市で開催したセミナーの第1日目は、浜松こども園を会場に「福祉施設の現場実践に学ぶ」と題して、先駆的実践発表が紹介された。第2日目は、プレスタワーに会場を移し「基調講演」として、学会初代会長 一番ヶ瀬康子氏が、阪神淡路大震災の政府復興委員の立場から、震災と福祉文化をもとに「21世紀にむけて 福祉文化を拓く」を熱く語られた。そして「4つの分科会」では、「災害と福祉文化」「働く人たちと福祉文化」「環境と福祉文化」「高齢者・障害者の余暇文化」に参加者が熱心に議論を深めた。

フィナーレは、「静岡で語ろう、“福祉文化”を身近な地域から、自立と共生の21世紀へ」を全国各地から参集された延べ400名が確認し合い閉会した。

この尊いセミナー実現のプロセスを「静岡発 福祉文化の創造」として形にしようと、1996年9月、ここに「静岡福祉文化を考える会」が阪神淡路大震災1年後に誕生した。



目的

本会は、さまざまな福祉・ボランティア活動に携わる人と市民がいっしょに、地域が抱える生活全般のさまざまな問題を考え、その改善のために努力する。

活動基調

- (1) さまざまな分野で活動する人が、専門分野と世代を超えて交流を図る。
 - * 「市民性と専門性」「理論と実践」を『融合』する努力
- (2) 会員だけが求心的・閉鎖的に集うのではなく、広く市民に拓かれた活動をする。
 - * 「公開型研修会」で市民性を高める努力
- (3) 既存の福祉組織活動から取り残された問題や新しく発生した問題を大切に、常に市民生活に密着した活動をする。
 - * 結成以来、「調査研究活動」を重視し地域課題を掘り起し、提言する努力

●大きな福祉文化の流れの中で、本会は「草創期」（会結成から実践活動6年間）、「協働期」（日本福祉文化学会静岡大会から6年間）、「実践融合期」（静岡県委託事業7年間）「共創社会実現期」（現在まで）の4つの流れを歩み続け現在に至る。



「静岡福祉文化を考える会」のこれまでの活動を紹介します。

■年次別活動テーマ

1996 年度：結婚とは ⇨ 1997 年度：共働き ⇨ 1998 年度：地域とは① ⇨ 1999 年度：家族とは ⇨ 2000 年度：父親とは ⇨ 2001 年度：ボランティア活動とは ⇨ 2002 年度：働く人の暮らし ⇨ 2003 年度：青年の生きがい ⇨ 2004 年度：地域とは② ⇨ 2005 年度：子どもと地域環境① ⇨ 2006 年度：子どもと地域環境② ⇨ 2007 年度：団塊の世代 ⇨ 2008 年度：長寿者の自立 ⇨ 2009 年度：長寿社会 ⇨ 2010 年度：生活圏域の支えあい ⇨ 2011 年度：生活圏域における一人一人の居場所を考える ⇨ 2012 年度：家族ってなにー真の居場所を問うー ⇨ 2013 年度：ここが一番、ホッと私たちのご近所の居場所づくり ⇨ 2014 年度：人々が豊かに暮らし合い、安心して暮らせる地域づくり ⇨ 2015 年度：静岡発、福祉文化の創造による豊かに暮らせる強い活圏域の地域づくり ⇨ 2016 年度：静岡発、福祉文化の創造とご近所福祉 ⇨ 2017 年度：集まる地域ぐるみの居場所を拓く ⇨ 2018 年度：子どもを育む地域づくりとは ⇨ 2019 年度：子どもを育む福祉コミュニティの再構築と地域ぐるみの支えあいの仕組み ⇨ 2020 年度：つながるご近所の再構築 決め手は一体何かーご近所福祉の復活、「近助」とは何かを探る

◇その年度における【地域課題】を活動テーマとし、活動内容を組み立て、理論と実践の展開をもとに考察し、その都度、地域社会に課題提起を続けてきた。

■公開型研修会のこれまでの取り組み

- (1) 合宿・現場セミナー 県内各地の社会教育施設を利用し、大学生や企業人、地域実践者等の参加をもとに、「朝まで生福祉」で大いに「福祉文化論議」で盛り上がる。主なテーマは「世の中どうなってるの?」「これでいいのか親子関係」「福祉の裏表」
- (2) 現場セミナー 「おもちゃ図書館」「障がい者の日々と介護」「地区社協とサロン活動」「介護体験から、利用者主体の施設づくりを考える」「言葉と文化/日本語を教える人々に学ぶ」等、県内各地に出向き、地域課題解決に取り組んでいる実践活動に学ぶ。
- (3) ワークショップ 年次別活動テーマをもとに、参加者主体（結成以来、外部講師を招かない）で、理論と実践をもとにまなびあい、ワークショップにより研修を総括し、それぞれ参加者が地元で実践する展開を試みる。（年間 3回～6回開催）
- (4) 福祉文化研究セミナー 2002年（平成15年）に、「富士山麓、いのちと暮らしによりそう福祉文化の創造と推進」をテーマに「第13回日本福祉文化学会静岡大会」（裾野市・全国から650名参加）を契機に、「福祉文化の火」をいつまでも消さないようにと、今日まで「研究セミナー」として開催している。

■調査研究活動の取り組み

本会結成以来、年次別活動テーマに基づき市民の視点で「調査内容」を組み立て、県域において実施し、草津結果を公表するとともに、課題提起をする。

■機関紙「OUR LIFE」の発行

A4版 4ページ仕立て 年平均5回、毎回200部発行 県内関係機関・団体等に配布啓発に努める。

■協働による活動

「地区社協」「福祉団体」「福祉施設」「ボランティア団体」「市町社会福祉協議会」「大学」等と協働による活動を試みてきた。



これまでの福祉文化実践活動アルバム あれこれ



◇ 一緒に「福祉文化活動」に参加しませんか ◇

○福祉・ボランティア活動に関心のある方は、ぜひご参加下さい。原則、国籍・年齢・職業等は問いません。

◇ 会費：社会人 3,000 円 大学生以下 1,000 円

◇ 郵便振り込み口座

口座番号 00880-1-111151

名義 静岡福祉文化を考える会 代表 平田 厚

入会ご希望の方は、下記の用紙にご記入の上、事務局までご連絡ください。

入 会 申 込 書

ふりがな 氏 名	性別 (男・女)	年代 (10/20/30/40/50/60/70/80)
連絡先	〒	—
	TEL	fax
	E-mail	
職 業		
●入会の動機、これからの活動に望むこと等ご自由にお書き下さい。		

静岡福祉文化を考える会規約

第1章 総則

第1条（名称）この会は、静岡福祉文化を考える会と称します。

第2条（事務所）この会の事務所（連絡先）は「☎424-0841 静岡市清水区追分3丁目5-17 NPO 法人泉の会内」に置くこととします。

第2章 目的・事業・活動基調

第3条（目的）この会は、さまざまな福祉・ボランティア活動に携わる人と市民がいっしょに、地域が抱える生活全般のさまざまな問題を考えその改善のために努力していくことを目的とします。

第4条（事業）この会は、前条の目的を達成するため、つぎの事業をおこないます。

- ① 情報交換活動
- ② 啓発・広報活動
- ③ 人的交流
- ④ 研究会・講演会・セミナーなどの開催
- ⑤ その他、この会の目的を達成するために必要な事業

第5条（活動基調）この会の活動は、つぎのような基調を守っていくこととします。

- ① さまざまな分野で活動する人たちが、専門分野と世代を超えて交流を図ります。
- ② 会員だけが求心的・閉鎖的に集うのではなく、広く市民に開かれた活動をめざします。
- ③ 既存の福祉組織の活動から取り残された問題や新しく発生してきた問題を大切にし、つねに市民生活に密着した活動をめざします。

第3章 会 員

第6条（会員の資格）この会の目的に賛同し協力をする個人。

原則として国籍・年齢・職業等を問いません。

第7条（入会）会員になろうとする人は、所定の申し込み用紙によって手続きをすることとします。

第8条（会費）会員は、規約により会費を納入しなければなりません。

2. 既納の会費は返済しません。

第9条（退会）会員は、いつでも役員会に通告し、退会することができます。

2. 会費を1年以上滞納した人は、委員会において退会したものとしてみなすことができます。

第4章 機 関

第10条（役員）この会の役員は、代表1名、副代表1名、事務局長1名、事務局次長1名、委員、監事とします。

第11条（役員の選任）代表、副代表、事務局長、事務局次長、委員、監事は、会員の中から互選し、会員全体会の承認を受けます。

第12条（役員の任務）代表は、この会を代表して会務を総括します。

2. 副代表は代表を補佐し、代表に支障が生じた場合には、の職務を代行します。

3. 委員は、事業・研究・広報・会計・事務局事務などの会務を執行します。

第13条（役員の補充）役員が任期の途中で退任した場合には、委員会で補欠を選任することができます。

第14条（会員全体会）代表は、年1回は、会員の全体会を招集しなければなりません。

2. 代表は、委員会が必要と認めたととき、または、会員の3分の1以上の請求があったときは、会員全体会を招集しなければなりません。

第15条（委員会）代表は、年4回程度、委員会を招集しなければなりません。

第16条（議 決）会員全体会の議事は、出席会員の過半数をもって決することとします。

第5章 会 計

第17条（経費）この会の経費は、会費・寄付金・その他の収入をもってあてます。

第18条（会費）この会の会費は、「社会人 年間3000円」、「大学生以下年間1000円」とし、原則として1回払いとします。

第19条（決算）この会の決算は、委員会の議決を経たあと、会員全体会の承認を得てこれを決定します。

第20条（会計年度）この会の会計年度は毎年4月1日に始まり3月31日をもって終わるものとします。

第6章 規約の改正

第21条（規約改正）この規約の改正は、会員全体会において出席会員の3分の2以上の賛成をえなければなりません。

附 則 平成8年9月1日施行

平成9年4月13日一部改定

平成18年4月30日一部改定

平成31年2月5日一部改定

これからの福祉を考えるネットサイト

焼津福祉文化共創研究会

平成28年度から平成30年度まで3年間にわたり、いかに、「共助・近助の地域を再構築すること（できるか）」を目的に、住民主体の企画運営により、「港地域ささえあい講座」（港第14・23目治会による読書会・港むちづくり推進会主催）を開催しました。

この講座運営に関わった実行委員有志と地域活動に熱心を持つ市民(14名)が、これまでの実績の成果をさらに地域づくりに活かそうと、2019年10月に「志願団体」として「焼津福祉文化共創研究会」が誕生しました

blog profile

<< 2021年01月 >>

2020年度
焼津福祉文化共創研究会主催
「第2回公開型報告研修会」開催要項

検索
 検索語句
 検索

プロフィール

お問い合わせメール：
 minatossae@gmail.com

リンク集
 日本福祉文化学会
 静岡福祉文化を考える会

参加は無料ですが三密防止を考慮しまして事前の参加予約が必要です（定員になり次第締め切ります）
 コロナウイルス感染症拡大防止対策に皆様のご協力をお願いします。

参加申し込み・お問い合わせ：
 百の木デザインサービス 焼津福祉文化共創研究会事務局
 電話 054-623-3665
 e-mail : minatossae@gmail.com

文化としての福祉の創造
日本福祉文化学会
 Japanese Society for the Study of Human Welfare and Culture

福祉を拓き、文化を創る。日本福祉文化学会は
 新しい共生社会の実現を目指し、実践と研究をつないでいきます

学会の紹介
 研究誌
 福祉文化実践報告集
 福祉文化通信
 全国大会
 福祉文化実践学会賞
 現場セミナー
 ブロック活動・委員会活動
 出版物
 入会案内
 福祉文化リンク集
 メールマガジン
 お知らせ
 学会の年表
 福祉文化批評
 福祉文化書評
 事務局

〇学会パンフレット〇

【更新情報】
 2021.01.26 研究誌に福祉文化アカデミア・学会誌論文作成支援記事を掲載しました
 2021.01.22 事務局に理事会議議事録を掲載しました。
 2021.01.13 事務局に総会報告を掲載しました。
 2021.01.09 中部東海ブロックページ変更

◆日本福祉文化学会事務局◆
 〒541-0047
 大阪府大阪市中央区淡路町4-4-13
 南里ビル701
 電話・FAX 06-4963-3410
 fukushibunka@lagoon.ocn.ne.jp

QRコードから簡単にジャンプできます。知識と知恵を身に付けましょう。

港地域ささえあい講座

焼津市港地域ささえあい講座を公開して
 広く多数の市民に福祉問題を考えたい
 ます。高齢者だけでなく障がい者、子供
 たちなどのこれからの社会に必要な
 であろう福祉の基本を勉強します。そ
 で協力者を多く増やし市民の福祉社会
 を実現します。
 E-mail minatossae@gmail.com

Profile Blog

<< 2021年01月 >>

2020年度 焼津福祉文化共創研究会主催
「第2回公開型報告研修会」開催要項

昨年11月の第一回研修会に続きまして本年度二回目の研修会です。
 どなたでも参加できます。お気軽にご参加ください。

開催日時 令和3年2月28日（日）13:00～15:30
 開催会場 港第14目治会 「石津コミュニティ防災センター」1階展示室

プログラム
 12:30～13:00 受付
 13:00～13:20 開会、アイスブレイク
 13:20～13:50 事業経過報告
 13:50～14:40 調査報告～ご近所福祉-その意識と
 実態調査から見えたものは何か
 14:40～14:50 休憩
 14:50～15:30 “若者発 ご近所かたる”
 で私のご近所を語る
 15:30 閉会
 （予定時間が変更になる場合もあります）

参加は無料ですが三密防止を考慮しまして事前の参加予約が必要
 になります。コロナウイルス感染症拡大防止対策に皆様のご協力をお願いし
 ます。

参加申し込み・お問い合わせ：
 百の木デザインサービス 焼津福祉文化共創研究会事務局
 電話 054-623-3665
 e-mail : minatossae@gmail.com

静岡福祉文化を考える会

「静岡福祉文化を考える会」は、さまざまな福祉活動に携わる人と市民が、いっしょに、地域が抱える生活全般のさまざまな問題を考え、その改善のために
 努力していくことを「福祉文化」ととらえて活動しています。活動内容は主に、公開型学習会としての委員会、公開型研修会、福祉文化研究セミ
 ナー、調査研究活動、機関誌「Our life」の発行などです。（平成8年9月にスタートし、県内全域で活動中。）

リンク集
 過去のデータ(2010～2013)はこちら
 日本福祉文化学会
 焼津福祉文化共創研究会

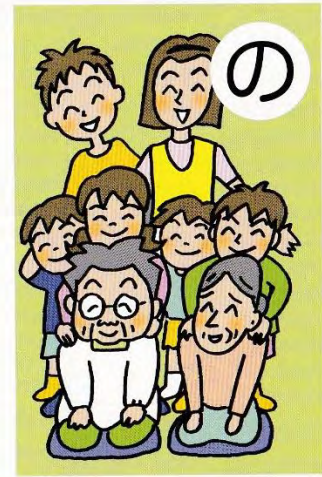
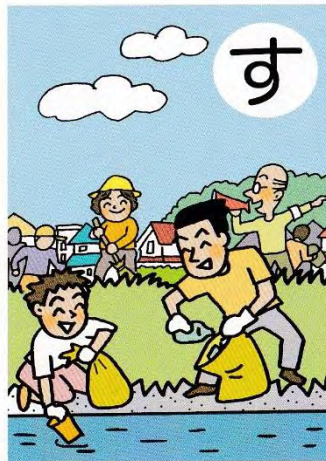
2021年01月27日
H29 沼津市地域福祉WS 2-3

プロフィール
 静岡福祉文化を考える会
 プロフィール
 ブログ

<< 2021年01月 >>

日時 月 火 水 木 金 土
 1 2
 3 4 5 6 7 8 9
 10 11 12 13 14 15 16
 17 18 19 20 21 22 23

タグ: ささえあい 静岡の福祉



公益財団法人 さわやか福祉財団 共生社会助成事業
 公益財団法人 あしたの日本を創る協会 政策提言助成事業
 2021年度 調査研究活動事業
 福祉ってなに? 461人の子どもたちに聞きました 調査報告書

- 発行：静岡福祉文化を考える会
 〒424-0841 静岡市清水区追分 3-5-17 NPO 法人泉の会内
 TEL: 054-367-2878 FAX: 054-367-2884
- 発行日：2022（令和4）年2月26日（200部）
- 印刷所：有限会社シブヤ印刷工芸社
 〒425-0057 焼津市下小田 637
 TEL: 054-624-2483 FAX: 054-624-2096